科目名	文学に親しむ	単位数	2	担当教員	及川 道之
授業の内容	古代から近代までの日本の文学作品や作家を順を追って取り上げ、文学の有する魅力を深く実感する。実際にそれぞれの作品を丁寧に読み進めながら、作品の生まれた時代や社会との関わりについて詳しく解説する。				
到達目標	文学の魅力について自らが実感できるようになる。 積極的に読んでみたいと思える文学作品と出会う。 文学を通して社会への関心を持つようになる。				
授業計画	第1回	文学とどう関わるか～授業の開始にあたって			
	第2回	古事記神話～なぜ神話は必要とされたのか			
	第3回	古事記神話～世界の始まりはどうイメージされたのか			
	第4回	万葉集～うたと文字との出会い			
	第5回	万葉集～好みのうたを探そう			
	第6回	源氏物語～なぜ傑作なのか			
	第7回	源氏物語～平安京という空間			
	第8回	宇治拾遺物語～お話し の原点			
	第9回	宇治拾遺物語～お話しが伝える豊饒な世界			
	第10回	徒然草～兼好法師の人生観			
	第11回	閑吟集～今につながる流行歌			
	第12回	柳多留～江戸川柳の面白さ			
	第13回	小泉八雲～「耳なし芳一」「雪女」など怪談を読む			
	第14回	石川啄木～生活がうたになる			
	第15回	宮澤賢治～「賢治先生」の願う世界			
授業に対する予習・復習	予習： その都度指示する		復習： 授業で配布したプリントの内容についてノートに整理しておく		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（80%）、授業態度（20%）				
教科書					
参考文献	必要に応じて支持する。				
注意事項	一人一人がそれぞれの文学作品についてどのように捉え感じたのか、漠然と授業に臨むのではなく文学と出会うための貴重な機会として出席して貰いたい。				

科目名	生涯学習概論	単位数	2	担当教員	松尾 信子
授業の内容	<p>今日では、生涯学習の重要性が増しており、人びとはさまざまな機会と方法で、生涯にわたって自発的に学習することが求められています。この講義では、生涯学習の概念が生まれた歴史的背景、そして、なぜ現代社会において生涯学習が必要なのか、ということについて学びます。また、これから地域の生涯学習推進の中核的な拠点となるのが図書館です。ですから、図書館司書が学習者の援助や指導を行う上で不可欠な知識や考え方についても理解を深めます。</p>				
到達目標	<p>この講義では、次の3点を到達目標にしています。</p> <p>① 生涯学習の理念や意義を理解し、専門用語を用いて自分の考えを述べることができる。</p> <p>② 自己の生涯学習プランを作成することができる。</p> <p>③ 図書館司書の役割を理解し、学習者への支援について考えることができる。</p>				
授業計画	第1回	オリエンテーション（授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明）			
	第2回	生涯学習の理念と歴史（～明治中期）			
	第3回	生涯学習の歴史（明治末期～）			
	第4回	ユネスコの生涯教育論			
	第5回	OECDのリカレント教育			
	第6回	生涯学習と学校教育			
	第7回	【個人ワークと発表】生涯学習の理念や意義について、専門用語を用いて自分の考えを述べる			
	第8回	生涯学習の方法と内容			
	第9回	生涯各期の発達課題と生涯学習			
	第10回	【個人ワークと発表】自己の生涯学習プランを作成し、発表する			
	第11回	生涯学習のための施設と各施設の専門職員（司書、学芸員等の役割と専門性）			
	第12回	【グループワークと発表】図書館司書の役割を理解し、学習者への支援計画を作成し発表する			
	第13回	生涯学習施設におけるボランティアの意義とその学び			
	第14回	生涯学習・生涯教育の計画化			
	第15回	授業の総括と小テスト			
授業に対する予習・復習	予習：	レジュメは毎回インターネットで配信しますので、事前に印刷して、必ず目を通してから授業に参加してください。	復習：	授業の中でレポート課題や演習課題について説明し、提出（発表）を求めます。課題を通して復習を行います。	
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>筆記試験（40%）、課題（40%）、授業態度（20%）</p>				
教科書					
参考文献					
注意事項	<p>1. 時間厳守です（始業時間に遅れて教室に入らないでください）。</p> <p>2. レジュメやレポート課題は毎回インターネットで配信しますので、講義の際に忘れずに持参してください。</p> <p>3. 授業は毎回、演習やグループワークを取り入れた全員参加型ですので、楽しく活発な授業内容になるように協力してください。</p>				

科目名	心理学入門	単位数	2	担当教員	大熊 美佳子
授業の内容	心理学は、人間の心のメカニズムや行動を科学的に研究していく学問です。本講義では、心理学の歴史と研究法を交えながら、心理学の基礎知識を学び、主に人間理解の観点から、人間の心と行動について理解を深めることを目的とします。				
到達目標	①心理学の基礎知識を身につける。 ②人の心のメカニズムと行動について理解を深める。 ③心理学を身近に感じることで、より深い人間理解へつなげる。				
授業計画	第1回	ガイダンス 心理学とは			
	第2回	心の発達			
	第3回	感覚と知覚			
	第4回	記憶			
	第5回	学習			
	第6回	知能			
	第7回	創造性			
	第8回	動機づけ			
	第9回	パーソナリティ			
	第10回	対人関係			
	第11回	社会・集団			
	第12回	心理臨床			
	第13回	メンタルヘルス			
	第14回	心理学的視点から読み解く物語			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 授業ノート、プリントを中心に、各回の授業内容を復習し、興味を持った内容について自ら調べるなど理解を深めてください。疑問点は次回に確認すること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（60%）、課題（20%）、授業態度（20%）				
教科書	特になし				
参考文献	講義の中で適宜紹介します。				
注意事項	講義形式で行います。				

科目名	現代社会入門	単位数	2	担当教員	松木 久子
授業の内容	一般常識として知っておきたい時事問題などを取り上げ、認識を深められるように話題を提供していく。				
到達目標	各自、社会を見る目を養い、だまされないように認識力を高めていくことができるようになる。				
授業計画	第1回	オリエンテーション：履修上の注意、講義内容の概要説明等			
	第2回	日本の政治について：与党と野党、各政党の特徴等			
	第3回	日本の選挙制度について：大・中・小選挙区制等			
	第4回	憲法改正論について：日本国憲法を見直す			
	第5回	司法制度改革について：アメリカとの比較等			
	第6回	地球温暖化問題について(1) 何が問題か			
	第7回	地球温暖化問題について(2) 今後、どうするか			
	第8回	戦争について考える(1) 世界大戦とは			
	第9回	戦争について考える(2) 民族紛争とは			
	第10回	戦争について考える(3) 核の問題			
	第11回	オリンピックについて(1) オリンピックのはじまり			
	第12回	オリンピックについて(2) 近代オリンピックの特徴			
	第13回	国際問題について(1) 北朝鮮問題			
	第14回	国際問題について(2) アメリカ大統領選			
	第15回	これまでのまとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 翌週の事柄について事前に調べる。		復習： 必要に応じて発表や小テストに対応できるようにしておく。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（40%）、発表（30%）、授業態度（30%）				
教科書	特に指定はしません。				
参考文献	必要に応じて紹介します。				
注意事項	図書館を活用し、自ら積極的に調べることを通して主体的に学ぶ態度を養うようにしてほしい。 必ず新聞に目を通し、ニュースに耳を傾けるようにしてほしい。				

科目名	情報と社会	単位数	2	担当教員	松尾 信子
授業の内容	私たちの周りにはたくさんの情報があふれています。その中には、自分が社会生活を営む上で必要な情報、就職活動に向けて有効な情報、そして仕事において有益な情報などが存在しますので、それらを常に収集しておく必要があります。この授業では、新聞や雑誌、あるいは Web から収集した情報を分析・整理・加工し、自らの知識や知恵に昇華させ、今後の行動や意思決定の判断材料として使えるようにします。				
到達目標	この講義では、次の3点を到達目標にしています。 ① 情報の収集・分析・整理・加工ができる。 ② 情報を効果的に活用することができる。 ③ 収集した情報から最善の判断をして、適切な行動を取れるようになる。				
授業計画	第1回	オリエンテーション（授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明）			
	第2回	現代社会における情報の意義を考える（さまざまなエピソードを参考に、情報の重要性を認識する）			
	第3回	情報の定義を学ぶ（日常の事例を通して、情報とはどういうものかについて理解する）			
	第4回	通信手段の発展と情報ネットワークについて理解する（遠く離れた人に必要な情報を伝えるために、さまざまな通信手段が生み出されたことを理解する）			
	第5回	情報を発信するメディアの性質、ネットメディアの活用法を学ぶ（メディアごとの性質の違いを知り、カテゴリ検索・キーワード検索のスキルを身につけることによって、効率的な情報の取得を図る）			
	第6回	情報の質を高める「ノイズやバイアスの判別」と「メタ情報」について理解する（本来の目的と違った情報や誤った情報を判別する）			
	第7回	「情報のピラミッド」を理解する（情報をレベルによって分類し、効果的に活用する方法を考える）			
	第8回	新聞から収集した情報を分析・整理し、自らの行動や意思決定の判断材料となるように加工する（1）情報収集（個人ワーク）			
	第9回	新聞から収集した情報を分析・整理し、自らの行動や意思決定の判断材料となるように加工する（2）発表			
	第10回	① 企業活動と情報システムについて学ぶ（企業における情報の活用について理解する） ② インターネットから情報を集める（就職を前提に、さまざまな企業を検索する）			
	第11回	収集した有益な企業情報について発表しあい、就職活動に役立てる			
	第12回	① 情報を効果的に伝える方法を考える（メッセージの内容・量・性質に応じたメディアを知る） ② 新聞の情報を理解し、有効活用する（1）情報収集			
	第13回	① 有益な情報を伝達するために適切な加工について学ぶ（伝達効率を高める方法について理解する） ② 新聞の情報を理解し、有効活用する（2）報告書作成			
	第14回	① 新聞の情報を理解し、有効活用する（3）発表			
	第15回	授業の総括と演習（発表と意見交換）			
授業に対する予習・復習	予習： レジュメは毎回インターネットで配信しますので、事前に印刷して、必ず目を通してから授業に参加してください。	復習：	授業の中でレポート課題や演習課題について説明し、課題の提出（発表）を求めます。課題を通して復習を行います。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（40%）、発表（40%）、授業態度（20%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	1. 時間厳守です（始業時間に遅れて教室に入らないでください）。 2. レジュメやレポート課題は毎回インターネットで配信しますので、講義の際に忘れずに持参してください。 3. 授業は毎回、演習やグループワークを取り入れた全員参加型です。積極的に参加する姿勢を評価しますので、楽しく活発になるように、自分の意見や考え方を開示してください。				

科目名	茶 道 を 学 ぶ	単位数	2	担当教員	浜田 孝子
授 業 の 内 容	<p>茶道は日本人が長い歴史の中で受け継いできた有形、無形の伝統文化です。茶道の持つ深い精神性から点前、茶室、茶道具、懐石料理などが生まれました。この授業は、このような日本独自の総合芸術である茶道を理解するために必要な知識と所作を学びます。特に実技では、茶会に参加した場合を想定して、客の心構えや茶室での立ち振る舞い、茶の飲み方を中心に行ないます。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茶道を学ぶ上で必要な知識を理解し、茶道文化検定4級レベル相当を目指します。 ・ 畳敷きの茶室での基本的な所作の実践を通して茶席での客の作法を身につけます。 ・ 授業を通じて茶の精神である「和敬清寂」の意味を理解します。 				
授 業 計 画	第1回	ガイダンス：「茶道を学ぶ」ことの意味について概説する。15回の講義の流れについて説明する。			
	第2回	茶の精神について：茶の心と美意識についての講義。畳の上を歩く実技。			
	第3回	茶の歴史①：喫茶の起源と日本への伝来についての講義。立つ、座るの実技。			
	第4回	茶の歴史②：茶文化の広がりや千利休による茶道の大成についての講義。襖の開け閉めとお辞儀の実技。			
	第5回	抹茶の話：茶の種類と製造方法、効能についての講義。前回までの所作の復習と確認のための実技。			
	第6回	茶室について：床の間、掛け軸についての講義。床の間の拝見の作法の実技。			
	第7回	茶道具について：点前に必要な道具の名称と役割についての講義。所作の復習と確認の実技。			
	第8回	点前について①：点前の構成と客の心得についての講義。茶席での装いと持ち物、作法を中心とした実技。			
	第9回	点前について②：茶の飲み方と菓子の食べ方の講義と実技。			
	第10回	茶会に招かれたら：客としての心構えと茶席での床の間の拝見、茶の飲み方等の所作の確認と実技。			
	第11回	模擬茶会①：実際の客となり、菓子を食べて茶を飲む。			
	第12回	模擬茶会②：前週と同じ。			
	第13回	模擬茶会③：前週と同じ。			
	第14回	授業のまとめ：「茶道を学ぶ」ことに関してのレポート。			
	第15回	総合演習：一服の茶を飲む行為を通して、茶道の精神性、芸術性を再確認する。			
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：		復習： 授業で習得した内容の意味を確認、理解する。特に実技は反復練習して身につける。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>レポート（20%）、実技（30%）、授業態度（50%）</p>				
教科書	適宜資料配布				
参考文献	<p>『新訳 茶の本』（岡倉天心 大久保喬樹訳、角川ソフィア文庫）</p> <p>『茶道文化検定公式テキスト4級』（株式会社 淡交社）</p>				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立ち振る舞い等の実技があるので、動きやすい服装が望ましい。ソックス（白）持参。 ・ 模擬茶会の抹茶、菓子代として1人1,000円を徴収する。 ・ 受講する人数によっては授業内容に若干の変更が生じる場合がある。 				

科目名	書道を学ぶ	単位数	2	担当教員	土屋 明美
授業の内容	<p>毎時間、教科書のお手本を課題にして、練習と清書を繰り返します。</p> <p>基本的な漢字（楷書・行書）の筆づかい・筆の運び方から作品の制作まで行います。</p>				
到達目標	<p><漢字>を中心に学び、半紙や色紙などを使用して創意工夫し、基本的な漢字（楷書・行書）の習得できることを到達目標とします。</p>				
授業計画	第1回	ガイダンス…授業の進め方			
	第2回	「楷書を書こう」	筆使い	①練習	
	第3回	〃		①清書	
	第4回	〃	形のまとめ方	②練習	
	第5回	〃		②清書	
	第6回	〃	文字の並べ方	③練習	
	第7回	〃		③清書	
	第8回	「行書を書こう」	筆使い	①練習	
	第9回	〃		①清書	
	第10回	〃	形のまとめ方	②練習	
	第11回	〃		②清書	
	第12回	〃	文字の並べ方	③練習	
	第13回	〃		③清書	
	第14回	「色紙に書く」(自由制作)		①練習	
	第15回	〃		②清書	
授業に対する予習・復習	予習： 授業中に配布するプリントを予習しておくこと。		復習： 授業中に配布するプリントを復習しておくこと。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>課題（50%）、作品（25%）、授業態度（25%）</p>				
教科書	<p>『書道入門』（今井凌雪著、講談社）</p> <p>※絶版のため、随時、コピーして配布いたします。</p>				
参考文献	随時、参考文献を配布いたします。				
注意事項	<p>・「書」（漢字）に関心を持って授業に臨むことを希望します。</p> <p>・用具・用材について</p> <p>□大筆（最低一本） □硯（一面） □墨（一丁/墨汁はできるだけ避けたほうがよい）</p> <p>□下敷（書道用フェルト） □文鎮 □水滴（スポイドも可） □雑巾（一枚） □古新聞紙（数枚） □半紙（毎回最低10枚・半紙が望ましい） など</p>				

科目名	絵画を学ぶ	単位数	2	担当教員	染谷 哲夫
授業の内容	絵画の意義や歴史に触れながら、表現の基礎となる形のとらえ方や表現の方法・技法等について考えてみたい。後半には自分なりの表現をめざし一枚の絵を描く。				
到達目標	①西洋美術（絵画）の大きな流れをたどりながら絵画についての興味・関心を深める。 ②身近なものを見つめて描く。 ③創作活動への関心を高め、自分らしい表現で一枚の絵に取り組む。				
授業計画	第1回	はじめに 絵画の意義や歴史（古代）			
	第2回	絵画の歴史（中世から近代、現代）			
	第3回	絵画表現の基礎（視点、遠近）			
	第4回	絵画表現の基礎（明暗、陰影）			
	第5回	絵画表現の基礎（クロッキー）			
	第6回	絵画表現の基礎（身近なものを描く 素描）			
	第7回	絵画表現の基礎（身近なものを描く 着彩）			
	第8回	絵画鑑賞（近隣の美術館を訪ねる 日時は未定）			
	第9回	自由制作①			
	第10回	自由制作②			
	第11回	自由制作③			
	第12回	自由制作④			
	第13回	自由制作⑤			
	第14回	自由制作⑥			
	第15回	鑑賞とまとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 課題に対しての資料を集める構想を練る等の準備をする。 日頃より芸術的価値のある物に積極的に触れる。		復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 作品（50%）、授業態度（50%）				
教科書					
参考文献	必要に応じて案内する。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作活動が中心となる。 ・ 自らの頭と目と手を動かして描く楽しさや喜びを味わう。 ・ 描画材は色鉛筆や水彩絵の具やアクリル絵具など自由（各自で用意する）。 ・ 絵画鑑賞として適当な土曜日を選び近隣の美術館に出かける予定。 				

科目名	英会話基礎演習	単位数	2	担当教員	赤松 道子
授業の内容	英会話の基本的具体的な項目を少しずつ学び、少しずつ覚え、練習していきます。聞くこと、話すことを中心として、1対1で話す経験を通して、身近な話題をはっきりとゆっくりと集中して聞き取り、話す練習をします。授業の最初にアンケートを行い、学生のみなさんの要望を授業に取り入れます。小話を聞き、クイズに答えながら、英語に慣れていきましょう。テーマ修了後にはわからない単語・表現を書いてもらい、次回の授業で復習します。(授業内容は授業時間によって変更がある場合があります)。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・はっきりとゆっくりと自分、家族、周りの世界の具体的な事柄について、基本的な表現を習得する。 ・質問したり、答えたりのやり取りを習得する。 ・恥ずかしさや英語への恐れを少なくし、人前で話すことに慣れる。 ・英語への興味をはぐくむ。 				
授業計画	第1回	授業アンケート記入と自己紹介。学生に適した自己紹介を学ぶ。	第16回	質疑応答の基本表現。疑問文の練習。会話を継続するために適した質問ができるように練習する。	
	第2回	自己紹介・あいさつの仕方。出会ったとき、別れる時の表現を学ぶ。	第17回	食事・食べ物(1) 基本的な表現の習得。食べ物の単語を確認する。	
	第3回	仕事・職業 基本的な表現。学生が興味を持っている読み物を取り上げる。	第18回	食事・食べ物(2) 朝食・昼食。食事場面の練習をする。	
	第4回	世界の言葉・人々・国々(1) 基本表現。日本と密接な関係にある国を取り上げる。	第19回	食事・食べ物(3) 注文の仕方。応用練習。注文・支払の仕方の基本を学ぶ。	
	第5回	世界の言葉・人々・国々(2) 言語、人々。○○語、○○人という表現を学ぶ。	第20回	食事・食べ物(4) 世界の料理。世界の民族料理に注目し、味についても学ぶ。	
	第6回	世界の言葉・人々・国々(3) 世界の国々。○○国、○○国という表現を理解する。	第21回	電話、電話の応対(1) 電話の基本表現。電話の仕方の基本表現を学ぶ。	
	第7回	家族(1) 基本表現。家族関係の基本的な単語を理解する。	第22回	電話、電話の応対(2) 伝言、電話の種類。職場での伝言の取次、対応の練習をする。	
	第8回	家族(2) 親戚、友人。幅広い関係を示す表現を学ぶ。	第23回	クリスマス・新年。歌・ゲーム。世界のクリスマス、日本のクリスマスと比較し、関連表現を学ぶ。	
	第9回	家族(3) 応用練習。家族についての表現を用いて会話練習する。	第24回	住まい・家・部屋(1) 基本表現の習得。○○あります、という存在を示す表現の練習をする。	
	第10回	時の表現(1) 基本的な表現の習得。時を示す表現方法を学ぶ。	第25回	住まい・家・部屋(2) 応用練習。部屋内部の説明を練習する。	
	第11回	時の表現(2) 毎日、朝から夜までの表現。○○時に何をするという表現を学ぶ。	第26回	町の紹介・場所の説明・道案内。町の特徴、建物の名前を学ぶ。	
	第12回	時の表現(3) 年月日について。西暦、月、日の表現方法を学ぶ。	第27回	町の建物や特徴についての表現を復習し、道案内の練習をする。	
	第13回	時の表現(4) 曜日、頻度の表現。いつもする、ときどきする、という頻度を示す表現を学ぶ。	第28回	スケジュール・約束・提案。基本表現。未来形を学び、約束に関連する表現を学ぶ。	
	第14回	誕生日、要望の表現。○○したい、という要望の表現を学び、自分の例を話す	第29回	将来・予定・人生設計。基本表現。自分の将来の希望について話す練習をする。	
	第15回	色彩・洋服・買物の表現。買物場面を念頭において、会話練習する。	第30回	復習・試験練習。今まで学んできた内容を確認し、復習する。	
授業に対する予習・復習	予習： 次の授業のテーマを予告しますから、テーマについて日本語で少し考えてみる。		復習： 授業で習った基本表現について、声を出して発音し、耳で確認する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施(○)する/()しない 筆記試験(70%)、授業態度(30%) 試験には口述試験も含まれます。				
教科書	カリキュラムに応じてプリントを配付します。				
参考文献	必要な場合には指示します。				
注意事項	表現の習得のために発音の練習をします。間違ってもかまいませんから、大きな声で発音すること。意欲を持ち、積極的に授業に参加すること。授業には英語の辞書を持参すること。(電子辞書、冊子式辞書どちらでもよい)				

科目名	韓国語会話基礎演習	単位数	2	担当教員	元 鍾彬
授業の内容	日本には様々な国からたくさんの外国人客が訪れています。この人たちと一緒に平和な社会を築くために「異文化の理解」は、重要なキーワードとなります。本講義では、近隣国家の似ていながら異なる面白い文化などを日本と比較しながら韓国語を進めていきます。韓国のドラマや音楽など、若い人々がよく接していくものなどを取り入れながらヒアリングや会話の練習を行います。				
到達目標	①ハングルの基礎をしっかりと学び、文章が読めるようにする。 ②自分の名前をはじめ、ハングルで文字が書けるようにする。 ③簡単な日常会話ができるようにする。				
授業計画	第1回	ガイダンスーハングルの学び方	第16回	明日は何をしますか？（予定、推測）	
	第2回	ハングルの発音（子音）	第17回	シークレットガーデン① 聞き取り練習と聞いたことばの確認	
	第3回	ハングルの発音（母音）	第18回	シークレットガーデン② 聞き取り練習と聞いたことばの確認	
	第4回	母音と二重母音	第19回	シークレットガーデン③ 聞き取り練習と聞いたことばの確認	
	第5回	ハングル（パッチム）	第20回	シークレットガーデン④ 聞き取り練習と聞いたことばの確認	
	第6回	単語を読む	第21回	シークレットガーデン⑤ 聞き取り練習と聞いたことばの確認	
	第7回	教室でよく使うことば	第22回	シークレットガーデン⑥ 聞き取り練習と聞いたことばの確認	
	第8回	自己紹介	第23回	シークレットガーデン⑦ 聞き取り練習と聞いたことばの確認	
	第9回	これは何ですか？	第24回	シークレットガーデン⑧ 聞き取り練習と聞いたことばの確認	
	第10回	数字を学ぼう	第25回	シークレットガーデン⑨ 聞き取り練習と聞いたことばの確認	
	第11回	数字の読み方	第26回	シークレットガーデン⑩ 聞き取り練習と聞いたことばの確認	
	第12回	位置や方向を学ぼう	第27回	シークレットガーデン⑪ 聞き取り練習と聞いたことばの確認	
	第13回	今日は何曜日ですか？	第28回	シークレットガーデン⑫ 聞き取り練習と聞いたことばの確認	
	第14回	助詞の使い方ー日本語と比較してみよう	第29回	全体の復習	
	第15回	～です。～ます。の丁寧な現在形を学ぼう	第30回	まとめ	
授業に対する予習・復習	予習： 毎回配布する資料を読んでくること		復習： 発音の練習や前回学んだことを確認すること		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（50%）、課題（10%）、発表（10%）、授業態度（30%）				
教科書	『最新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、百水社）				
参考文献	『YONSEI 韓国語読み』（延世大学校韓国語学堂、延世大学校出版部）				
注意事項	出席や授業態度は成績に大きな影響を及ぼします。基礎を学ぶ時は欠席をしないようにしてください。テキストは購入する必要はありません。毎回資料を配布します。				

科目名	中国語会話基礎演習	単位数	2	担当教員	山口 芳
授業の内容	この講座は中国語で簡単なコミュニケーションができるようになるために、中国語の基礎を身に付けて、さらに中国や中国文化に対する理解と関心を高めるのがねらいです。具体的には、日常生活の様々な場面を通じて、中国の人々の生活や中国の文化に触れながら講義を進めます。				
到達目標	この講座の目標は (1) 中国語の発音 (ピンイン) が読めるようになること、(2) 基本的な文章 (語順) が正しく組み立てられようになること、(3) それぞれの場面に適切な会話ができるようになること、を旨します。				
授業計画	第1回	中国語の基本概念・発音Ⅰ (単母音・声調)	第16回	家族の紹介 (場所・人数・メンバ・学校からの距離)	
	第2回	発音Ⅱ (子音1・半三声と軽声)	第17回	食事 (文法項目: 動詞のアスペクト・助動詞「想」・介詞「從…到」)	
	第3回	発音Ⅲ (二重母音・子音2)・簡単な挨拶	第18回	自分の一日 (起床から寝るまでの行動)	
	第4回	発音Ⅳ (三重母音)・数字①	第19回	アルバイト (文法項目: 時量の表現)	
	第5回	発音Ⅴ (鼻母音)	第20回	職業・仕事 (文法項目: 介詞「在」)	
	第6回	発音の復習・自分の名前の読み方	第21回	旅行 (1) (文法項目: 過去の経験・介詞「給」)	
	第7回	学修用品 (文法項目: 「是」の述語分・疑問文)	第22回	旅行 (2) (文法項目: 「是…的」の構造文)	
	第8回	自己紹介Ⅰ (名前・身分・国籍)	第23回	車の運転 (文法項目: 助動詞「会、能、可以」)	
	第9回	私達の学校 (文法項目: 形容詞述語文)	第24回	中国語のDVD鑑賞と質疑応答、応用会話	
	第10回	物についての評価 (文法項目: 主述述語文)	第25回	今何をしていますか (文法項目: 進行形・連動文)	
	第11回	数字②・日付・自国の表現・量詞 (助数詞)	第26回	趣味 (文法項目: 助動詞「喜歡」・動詞の重ね型)	
	第12回	お金の表現 (文法項目: 名詞述語文)	第27回	疑問詞のまとめ・文型の整理	
	第13回	食べ物・飲み物 (文法項目: 動詞述語文・「有」の述語文)	第28回	自己紹介Ⅱ (200字程度)	
	第14回	レストランで注文の仕方 (反復疑問文・選択疑問文)	第29回	疑問詞の応用会話・発表会リハーサル	
	第15回	家族・住まい (文法項目: 「在」の述語文・介詞「離」)	第30回	総合復習・発表会	
授業に対する予習・復習	予習:		復習: 毎回の課題を次のレッスンまでに準備しておくこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験: 実施 (○) する / () しない 筆記試験 (40%)、課題 (20%)、発表 (20%)、授業態度 (20%)				
教科書	カリキュラムに応じてプリントを配布する。				
参考文献	『《最新2訂版》中国語はじめの一步』(竹島 金吾監修、尹 景春・竹島 毅著、白水社) 『漢語口語速成 (入門編)』(北京語言大学出版社)				
注意事項	カリキュラムに応じてカード、プリントなどを使用する。 毎回ポイントを説明し、繰り返し練習することによって覚えていく。 毎回の内容を積み上げながら取り組むため、原則として欠席はしないように。				

科目名	スポーツと健康		単位数	2	担当教員	北洞 誠一
授業の内容	和室での実技で「身体を緩める、緊張を取る。」ことの実習を通して、より良い状態の身体にしていくことが中心です。2、3回、航空公園でのウォーキング実習を行います。また健康に関する座学を5回行います。テーマは、ストレス、免疫、運動、食事、メンタル。ビデオ学習会を2回行います。9月のスケート実習の選択も可能です。					
到達目標	自分の身体の緊張に気づき、その緊張をほぐす方法を身につける。 健康の正しい知識を身につけ、実生活に活かすことができる。					
授業計画	第1回	オリエンテーション：この1年間で行うこと		第16回	ビデオ学習：ファーストフードについて	
	第2回	あべこべ体操ベース1（前屈・進展の動き）		第17回	あべこべ体操応用（前後左右）	
	第3回	あべこべ体操ベース2（側屈の動き）		第18回	あべこべ体操応用（ねじり）	
	第4回	あべこべ体操ベース3（ねじり）		第19回	健康の知識：食事	
	第5回	健康の知識：ストレス		第20回	あべこべ体操応用（立位）	
	第6回	ウォーキング1（航空公園）		第21回	あべこべ体操応用（立位ペア）	
	第7回	あべこべ体操四つ足の動き		第22回	健康の知識：メンタル	
	第8回	あべこべ体操仰臥位の動き		第23回	あべこべ体操応用（肩こり改善の動き）	
	第9回	健康の知識：免疫		第24回	あべこべ体操応用（腰痛改善の動き）	
	第10回	あべこべ体操ペアの動き（仰臥位・脚）		第25回	ウォーキング3（航空公園）	
	第11回	あべこべ体操ペアの動き（仰臥位・腕）		第26回	あべこべ体操応用（ペアで動きの改善）	
	第12回	健康の知識：運動		第27回	あべこべ体操応用（ペアで身体調整）	
	第13回	ウォーキング2（航空公園）		第28回	ビデオ学習：添加物の問題	
	第14回	あべこべ体操まとめ		第29回	あべこべ体操応用まとめ	
	第15回	前半のまとめ（実技と講義）		第30回	1年のまとめ（実技と講義）	
授業に対する予習・復習	予習： 課題について検索する。			復習： 授業内容についてのレポート提出（3回）		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（40%）、実技（40%）、授業態度（20%）					
教科書	『首・肩・腰の疲れがあつという間にほぐれる本一“あべこべ”に体を動かすだけ！』（北洞誠一、主婦の友社）					
参考文献						
注意事項	実技の時は、動きやすい服装（ジャージ等）を用意すること。また頭の下に敷くタオルを持参すること。授業は5～15名で行いますので、履修者が5名未満の場合、授業は不成立となります。					

科目名	ゼミナールⅠ	単位数	1	担当教員	及川 道之
授業の内容	卒業研究や制作を行うゼミナールⅡに向けた準備を行う。文学及び歴史・文化などへの関心の立て方や問題意識の掘り起しについて指導する。				
到達目標	ゼミナールⅡでのテーマを決定できるようにする。 文学・歴史・文化に対して問題意識を持つ。 資料の収集や整理の方法を修得する。				
授業計画	第1回	授業の始まりにあたって～ゼミナール・卒業研究について			
	第2回	テーマを見つける～『古事記』上巻をよむ			
	第3回	テーマを見つける～『古事記』上巻からわかること			
	第4回	資料の整理とまとめ方			
	第5回	テーマを見つける～『万葉集』をよむ			
	第6回	テーマを見つける～『万葉集』からわかること			
	第7回	資料の整理とまとめ方			
	第8回	問題意識の育て方～『銀河鉄道の夜』を輪読する①			
	第9回	問題意識の育て方～『銀河鉄道の夜』を輪読する②			
	第10回	問題意識の育て方～『銀河鉄道の夜』を輪読する③			
	第11回	問題意識の育て方～『銀河鉄道の夜』を輪読する④			
	第12回	問題意識の育て方～『銀河鉄道の夜』を輪読する⑤			
	第13回	輪読の成果をまとめる①			
	第14回	輪読の成果をまとめる②			
	第15回	授業の終わりにあたって～ゼミナールⅡへの準備			
授業に対する予習・復習	予習： 輪読は分担を決めて読み進めることになるので、自己の担当箇所については入念に調べておくことが不可欠。	復習： ノートの整理を始め必須事項をまとめておく。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（70%）、授業態度（30%）				
教科書					
参考文献	必要に応じて指示する。				
注意事項					

科目名	ゼミナールⅠ	単位数	1	担当教員	山口 博美
授業の内容	キャリア教育を中心とした在学生の学びを、アクティブラーニングとして実践に向けた基礎力を要請する。2年のゼミナールⅡにおいて卒業研究で発表することを想定し、「コミュニティの形成」をテーマに取り組む。2年生で内定を獲得する要因は、①基礎学力と②将来に向けた夢や目標③アクションの活発さであり、これらの要因を、地域に生きる社会人として問題をとらえてゆく力を醸成する。				
到達目標	①自分の住む地域社会、コミュニティでなにが起きているか、情報収集（新聞、広報、TV, 口コミ）ファイル作成。 ②ビジョンの明確さを打ち出すために自己の住む地域情報を発表。 ③地域の人々に取材し様々な住民の活動に参加し彼らの持つ問題意識や運動を知り、企画書作成。電話をかけて取材の申し込み、交渉術を身につけて行動に移す。結果発表。				
授業計画	第1回	オリエンテーション			
	第2回	コミュニティ論について学習			
	第3回	コミュニティの理想と現実 シャッター商店街、幽霊団地、地方の荒廃、後継者と新Uターン族、街の変化			
	第4回	前回の資料を使い、自己の街の特色、問題点を発見、興味のある事を発表			
	第5回	自分の興味のある地域を検索し魅力や、テーマ、問題点をとらえて整理し、ファイルを作る。			
	第6回	様々な視点から、地域の新聞、自治体広報、興味のある町、観光地のパンフレット、ガイドブック収集			
	第7回	他者の興味に対する疑問点、質問をする。発表の言葉の選び方（曖昧さはないか、正しく伝えられたか、写真、映像効果は）			
	第8回	調査主題、地域、対象者の決定。調査方法の選択、調査、アンケートの内容決定			
	第9回	調査主題、地域、対象者の決定。調査方法の選択、調査、アンケートの内容検討、プレテスト			
	第10回	フィールドワークの計画、実施要項を作成する。学校に提出し許可を得る。			
	第11回	コミュニティ訪問。調査インタビュー、取材の現場を訪れる実践する。			
	第12回	フィールドワークの結果をレポートにまとめ、発表			
	第13回	フィールドワーク 二回目の準備、交渉を行う。（自治体や観光課、NPO、自治会等）			
	第14回	フィールドワーク結果発表			
	第15回	全体の研究をまとめ、コミュニティレポートにして提出			
授業に対する予習・復習	予習： 課題を検索、ノートにまとめる インタビューや取材の申し込みの準備をする	復習： 学習の発表の感想文を提出 フィールドワークの写真、地図、資料の整理しファイルをまとめる			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（40%）、課題（30%）、発表（30%）				
教科書					
参考文献	『コミュニティ形成と学習活動』（渡辺博史、学文社）				
注意事項	フィールドワークを実施し、外部の団体と折衝するにふさわしい態度を身につけていることが望ましい				

科目名	ゼミナール I	単位数	1	担当教員	中西 希和
授業の内容	ファッションはその時代の政治や経済、社会的な現象、また生活意識やライフスタイルと密接に関係しています。ファッションを研究するためにはファッションが持つ文化的・社会的な意味を理解し、様々な視点から考察する必要があります。この授業ではファッション関連の文献を輪読しながら資料の収集方法、論文の構成等を学び、そして関心のあるテーマを見つけ、問題意識を明確にしていくことを目指します。また、作品制作に必要な基礎的な技術を習得することを目指します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッション関連の文献を読み、資料の集め方、論文の構成、書き方等を知る。 ・関心のあるテーマを見つけ、問題意識を明確にする。 ・作品制作に必要な基礎的な技術を身につける。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション			
	第2回	ファッションに関する講義①			
	第3回	ファッションに関する講義②			
	第4回	ファッションに関する講義③			
	第5回	ファッションに関する講義④			
	第6回	ファッション関連文献の輪読①			
	第7回	ファッション関連文献の輪読②			
	第8回	ファッション関連文献の輪読③			
	第9回	織研新聞の講読・報告①			
	第10回	織研新聞の講読・報告②			
	第11回	様々な装飾・アレンジ方法の基礎練習			
	第12回	小物制作①			
	第13回	小物制作②			
	第14回	小物制作③			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 授業で扱う文献を読み、わからない箇所等を調べておく。		復習： 授業で配布する資料をよく読み、復習しておく。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題・作品（60%）、授業態度（40%）				
教科書	必要に応じ、プリントを配布します。				
参考文献					
注意事項	図像資料を紹介しながら授業を行うため、パワーポイント、DVDを使用します。				

科目名	ゼミナール I	単位数	1	担当教員	矢代 寿寛
授業の内容	問題の設定、調査、調査結果の整理、報告の作成、発表、という一連の作業を、自主性を持って実現するために必要となる基礎的な知識と技術の獲得を目指します。方法論を学ぶため、輪読を中心に行います。取り扱うテーマは特に指定せず、各々が想定するキャリアパスに応じます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・締め切りの決まった作業を繰り返すことに慣れる ・読んだものを要約し、発表できるようになる ・他人の発表に意見できるようになる 				
授業計画	第1回	履修案内、履修準備			
	第2回	輪読入門			
	第3回	輪読：『分かりやすい表現の技術』1			
	第4回	輪読：『分かりやすい表現の技術』2			
	第5回	輪読：『分かりやすい表現の技術』3			
	第6回	輪読：『分かりやすい表現の技術』4			
	第7回	文献購読：読み物			
	第8回	文献購読：短報			
	第9回	文献購読：論文			
	第10回	想定キャリアパスに応じた課題と作業1			
	第11回	想定キャリアパスに応じた課題と作業2			
	第12回	想定キャリアパスに応じた課題と作業3			
	第13回	想定キャリアパスに応じた課題と作業4			
	第14回	想定キャリアパスに応じた課題と作業5			
	第15回	これまでのまとめと卒業研究に向けての準備			
授業に対する予習・復習	予習： 指定文献の読解			復習：	
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（50%）、発表（50%）				
教科書	無し				
参考文献	無し				
注意事項	講談社ブルーバックス『「分かりやすい～」の技術』シリーズを利用します。受講人数次第でこちらで購入したものを全員に配布します。その後の輪読資料や参考文献は個人ごとに指定します。				

科目名	ゼミナールⅡ	単位数	2	担当教員	及川 道之
授業の内容	日本の文学・歴史などの文化的な事柄について、自身の考えたテーマに沿って考察した内容をまとめる。基本的なことは既に1年次に伝えてあるので、論文もしくは作品の完成に向けて実際の作業を進めていくことが主体となる。				
到達目標	論文や作品を完成させる。 学んだ内容を他者が理解できるよう伝える。 学習の集大成としてまとめる。				
授業計画	第1回	授業を始めるにあたって～ゼミナールⅠを振り返る	第16回	後期の始まりにあたって～テーマの最終確認	
	第2回	上代文学から～古事記	第17回	テーマ別に個別指導①	
	第3回	上代文学から～万葉集	第18回	テーマ別に個別指導②	
	第4回	上代文学と歴史・風土	第19回	テーマ別に個別指導③	
	第5回	平安文学から～源氏物語①	第20回	テーマ別に個別指導④	
	第6回	平安文学から～源氏物語②	第21回	中間発表会①	
	第7回	平安文学から～更級日記	第22回	テーマ別に個別指導⑤	
	第8回	平安文学と歴史・風土	第23回	テーマ別に個別指導⑥	
	第9回	中世文学から～宇治拾遺物語①	第24回	テーマ別に個別指導⑦	
	第10回	中世文学から～宇治拾遺物語②	第25回	テーマ別に個別指導⑧	
	第11回	中世文学に描かれた地方	第26回	中間発表会②	
	第12回	中世文学と歴史・風土	第27回	テーマ別に個別指導⑨	
	第13回	近世文学～芭蕉・近松。川柳	第28回	テーマ別に個別指導⑩	
	第14回	明治以降の文学	第29回	テーマ別に個別指導⑪	
	第15回	前期のまとめと後期に向けて	第30回	最終発表会	
授業に対する予習・復習	予習： 必要に応じてその都度1人ひとり個別に指示する。		復習： 必要に応じてその都度1人ひとり個別に指示する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 作品（80%）、発表（10%）、授業態度（10%）				
教科書					
参考文献	必要に応じてその都度個別に指示する。				
注意事項	自らテーマを設定し、回答を自分で用意する作業になるので、その過程が何より貴重な体験となる。主体的に取り組むことが大切である。				

科目名	ゼミナールⅡ	単位数	2	担当教員	山口 博美
授業の内容	ゼミナールⅠを基礎とし、コミュニティの形成を探る。自らの地域、興味のある地域を選びそのコミュニティ形成や現在の状況をフィールドワークを通して研究する。調査と具体的活動を通して考え気づいたことを発表し、プレゼン力をつける。またインターンシップ・アルバイトやボランティアの活動を経験し、アクティブラーニングを勧め、社会人としての能力を磨きながら、コミュニティで豊かな人間関係を結ぶことを実践体得する。自己のキャリアを積みながら就職に結びつけることを意識する。				
到達目標	1、各自の就職に目標を持ち明確なビジョンを持つ。のそれに関連するようなイベントや地域のコミュニティ形成活動に注目し、取材し、また参加する。 2、アクティブラーニングをコミュニティの中で学び卒業テーマとしてその過程を研究発表する。 3、活動参加の実績を就職・今後の人生に豊かな人間関係を構築できるように身につける。				
授業計画	第1回	ゼミナールⅡの説明	第16回	実践活動の報告と発表討議	
	第2回	自己のライフプラン作成と見直し	第17回	卒論テーマの調査と研究（1）	
	第3回	自己能力の見直しと今後の就職活動計画	第18回	卒論テーマの設定と計画（2）	
	第4回	コミュニティ論 各地の特色、祭り・行事・歴史	第19回	個別指導（1～3名）	
	第5回	我が街および各地の活性化と未来 イベントに参加	第20回	個別指導（1～3名）	
	第6回	資料分析と発表（検索・新聞・取材調査）	第21回	個別指導（1～3名）	
	第7回	コミュニティの形成と再生 望ましい未来	第22回	個別指導（1～3名）	
	第8回	各自の研究計画立案	第23回	個別指導（1～3名）	
	第9回	フィールドワーク実施	第24回	個別指導（1～3名）	
	第10回	調査や取材結果と報告	第25回	個別指導（1～3名）	
	第11回	自己の就職活動、キャリアプランとの関連	第26回	個別指導（1～3名）	
	第12回	研究テーマの見直し	第27回	個別指導（1～3名）	
	第13回	実践活動（1）	第28回	卒論仕上げ	
	第14回	実践活動（2）	第29回	卒論仕上げ	
	第15回	実践活動（3）準備カードまとめ	第30回	卒論提出と発表	
授業に対する予習・復習	予習： 毎回の発表の準備ノートを作る 卒論準備カード		復習： 次回の活動計画を作る。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（40%）、課題（30%）、発表（20%）、実技（%）、授業態度（10%）				
教科書					
参考文献					
注意事項					

科目名	ゼミナールⅡ	単位数	2	担当教員	中西 希和
授業の内容	ファッション文化、ファッションビジネス等に関わる内容から各自のテーマを見つけ、調査、研究を進め、論文または作品とレポートにまとめていきます。調査、研究を通してファッションに関わる様々な問題について考察し、得られた知識を実生活や社会において活用していくことを考えます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心のあるテーマを見つける ・ 各自のテーマに沿って、調査、研究を進める ・ 調査、研究を進め、成果をまとめる 				
授業計画	第1回	オリエンテーション、小物制作	第16回	テーマ別研究・制作、個別指導①	
	第2回	ファッション雑誌の分析	第17回	テーマ別研究・制作、個別指導②	
	第3回	ファッション雑誌の編集①	第18回	テーマ別研究・制作、個別指導③	
	第4回	ファッション雑誌の編集②	第19回	テーマ別研究・制作、個別指導④	
	第5回	ファッションブランドの分析①	第20回	テーマ別研究・制作、個別指導⑤	
	第6回	ファッションブランドの分析②	第21回	テーマ別研究・制作、個別指導⑥	
	第7回	様々な装飾・アレンジ方法の基礎練習	第22回	中間報告	
	第8回	小物制作①	第23回	テーマ別研究・制作、個別指導⑦	
	第9回	小物製作②	第24回	テーマ別研究・制作、個別指導⑧	
	第10回	資料、研究方法を検討する	第25回	テーマ別研究・制作、個別指導⑨	
	第11回	調査を進める	第26回	仕上げ、まとめ①	
	第12回	テーマを決める	第27回	仕上げ、まとめ②	
	第13回	資料、研究方法を決める	第28回	仕上げ、まとめ③	
	第14回	調査を進める①	第29回	仕上げ、まとめ④	
	第15回	調査を進める②	第30回	提出、発表	
授業に対する予習・復習	予習： 積極的に各自のテーマに取り組むようにしてください。		復習： 授業で配布する資料をよく読み、復習しておいてください。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題・作品（60%）、発表（20%）、授業態度（20%）				
教科書	必要に応じ、プリントを配布します。				
参考文献	授業の中で随時、紹介します。				
注意事項	画像資料を紹介しながら授業を行うため、パワーポイント、DVDを使用します。				

科目名	ゼミナールⅡ	単位数	2	担当教員	矢代 寿寛
授業の内容	人間が表現によって作り出した情報資源の利活用を中心的なテーマとして、新規性と有用性、汎用性を意識した調査・研究とその成果の報告・発表を行います。また、ゼミナール1で学んだ基礎的な方法論を応用して、明確な成果を得るためのプロジェクトを計画し、実行します。可能であれば共同での調査や討論、発表なども行います。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 適切なテーマを設定し、その解決策を考えることができる テーマに沿った調査を自らの計画に従って行える 調査結果をまとめ、発表することができる 				
授業計画	第1回	履修案内	第16回	プロジェクトのテスト1	
	第2回	プロジェクトの計画1：課題の探索	第17回	テーマ報告の作成1	
	第3回	プロジェクトの計画2：課題の列挙	第18回	テーマ報告の作成2	
	第4回	個人テーマの策定1	第19回	テーマ報告の作成3	
	第5回	個人テーマの策定2	第20回	プロジェクトのテスト2	
	第6回	調査1：課題の背景1	第21回	プレゼンテーションの作成1	
	第7回	調査2：課題の背景2	第22回	プレゼンテーションの作成2	
	第8回	調査3：既存研究	第23回	プレゼンテーションの作成3	
	第9回	プロジェクト・テーマの見直し	第24回	プレゼンテーション1	
	第10回	追加調査1	第25回	プレゼンテーション2	
	第11回	追加調査2	第26回	プロジェクトの実行1	
	第12回	プロジェクトの討論1	第27回	プロジェクトの実行2	
	第13回	プロジェクトの討論2	第28回	プロジェクトの実行3	
	第14回	個人テーマの討論1	第29回	プロジェクトの評価	
	第15回	個人テーマの討論2	第30回	プロジェクトの改善	
授業に対する予習・復習	予習： 課題進捗の確認		復習： ゼミ内での指導内容		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（100%）				
教科書	無し				
参考文献					
注意事項	履修中は報告、連絡、相談を心がけましょう。 テーマによっては学外で実施することがあります。 テーマについては可能な限り相談に応じます。基本的な対応範囲は、図書館、出版、博物館・美術館、インターネット、Web サービス、アナログゲームです。				

科目名	ゼミナールⅡ		単位数	2	担当教員	吉井 利眞
授業の内容	IT スキルのレベルアップをめざす受講生向けには、練習用教材と試験練習用教材を利用した演習を行います。創作活動をめざす受講生向けには、必要な素材の加工や利用方法、作品の出力方法などについての指導も行います。ゼミ員全員で参加し、作り上げていく合同企画もあわせて行います。興味や関心の違いを越えて何ができるのかを探っていきます。					
到達目標	<p>検定グループは、各自がめざす検定試験の合格と情報収集と分析、情報の取りまとめと適切な表現方法の選択と実践などの情報活用能力の習得。</p> <p>創作グループは、作品の完成・公開とそれに至るまでの PDCA サイクルの実践ができること。</p>					
授業計画	第1回	演習の目標設定		第16回	IT スキルアップ対策講座1 / 卒業制作準備	
	第2回	文書処理・表計算演習1 / 創作演習1		第17回	IT スキルアップ対策講座2 / 卒業制作準備	
	第3回	文書処理・表計算演習2 / 創作演習2		第18回	ゼミナール合同企画の準備1	
	第4回	文書処理・表計算演習3 / 創作演習3		第19回	ゼミナール合同企画の準備2	
	第5回	学習成果の発表		第20回	IT スキルアップ対策講座3 / 卒業制作1	
	第6回	文書処理・表計算演習4 / 創作演習4		第21回	IT スキルアップ対策講座4 / 卒業制作2	
	第7回	文書処理・表計算演習5 / 創作演習5		第22回	IT スキルアップ対策講座5 / 卒業制作3	
	第8回	文書処理・表計算演習6 / 創作演習6		第23回	ゼミナール合同企画1	
	第9回	文書処理・表計算演習7 / 創作演習7		第24回	ゼミナール合同企画2	
	第10回	IT 模擬テスト1 / 創作中間発表1		第25回	IT スキルアップ対策講座6 / 卒業制作4	
	第11回	IT 模擬テスト2 / 創作中間発表2		第26回	IT スキルアップ対策講座7 / 卒業制作5	
	第12回	文書処理・表計算演習8 / 創作演習8		第27回	IT スキルアップ対策講座8 / 卒業制作6	
	第13回	文書処理・表計算演習9 / 創作演習9		第28回	ゼミナール合同企画3	
	第14回	文書処理・表計算演習10 / 創作演習10		第29回	ゼミナール合同企画4	
	第15回	学習成果の発表		第30回	卒業制作発表	
授業に対する予習・復習	予習：各自が設定したスケジュールに従って予備的な練習や構想を毎回練ること。			復習：時間内に達成できなかった目標について問題点を考え、次の準備に生かすこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない レポート（80%）、授業態度（20%）					
教科書	『MOS 攻略問題集 Word 2010』（日経 BP 社）、『MOS 攻略問題集 Excel 2010』（日経 BP 社） （以上、検定グループのみ）					
参考文献						
注意事項	IT スキルアップをめざす人は、学習成果を各種検定資格の取得として実現しましょう。 創作活動に励む人は、プレゼンということも意識しましょう。					

科目名	短大生基礎力演習	単位数	1	担当教員	及川 道之 他
授業の内容	<p>短期大学で学ぶことの意味、学び方、学んだことの実践、そして授業や学園生活を送る上で必要不可欠なコミュニケーション能力を身につけるための指導を行います。</p> <p>毎時間に10～15分程度の基礎学力鍛錬講座を実施します。</p> <p>また、社会とのつながりを考えていく手がかりとしてプレ・ボランティアを実施します。</p>				
到達目標	各自が立てた目標に対する基礎学力の向上、短大生としての学習方法の習得、学内外でのコミュニケーション能力の向上が到達目標です。				
授業計画	第1回	基礎学力鍛錬講座 & これから学ぶこと			
	第2回	基礎学力鍛錬講座 & コミュニケーションをとる			
	第3回	基礎学力鍛錬講座 & 発表とコメントの体験(1) グループ前半			
	第4回	基礎学力鍛錬講座 & 発表とコメントの体験(2) グループ後半			
	第5回	基礎学力鍛錬講座 & ノートのとり方(1) メモとノート			
	第6回	基礎学力鍛錬講座 & ノートのとり方(2) 自学用ノートの作成			
	第7回	プレ・ボランティア(1) 学内			
	第8回	プレ・ボランティア(2) 学外			
	第9回	基礎学力鍛錬講座 & レポートの書き方(1) 約束事			
	第10回	基礎学力鍛錬講座 & レポートの書き方(2) 情報収集と整理			
	第11回	基礎学力鍛錬講座 & レポートの書き方(3) 作成と提出			
	第12回	プレ・ボランティア(3) 学外			
	第13回	プレ・ボランティア(4) 学外			
	第14回	基礎学力鍛錬講座 & 課題への取り組み方			
	第15回	学んだことを確認し発表してみる			
授業に対する予習・復習	予習： 基礎学力の練習教材を解いてみる。		復習： 取り組みについて自己評価を行う。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施()する/ (○)しない</p> <p>レポート(30%)、課題(30%)、発表(20%)、実技(20%)</p>				
教科書					
参考文献					
注意事項	積極的な関わりが必要です。				

科目名	ことばと表現	単位数	2	担当教員	及川・宮内・相沢
授業の内容	短大生として必須とされる、さまざまなタイプの文章を読むことができる読解力と、日常の様々な場面で自身の考えを的確に伝える表現力を身につけるために、「読み」「書き」「話す」トレーニングを繰り返し徹底的に行っていく。				
到達目標	<p>さまざまな文章を読んで理解できるようになる。</p> <p>要求された内容を文章で伝えられるようになる。</p> <p>効果的なプレゼンテーションを行えるようになる。</p>				
授業計画	第1回	授業の概要とクラス分け	第16回	語彙・読解力検定3級に挑戦	
	第2回	自己紹介	第17回	語彙・読解力検定準2級に挑戦	
	第3回	新聞記事の読解～論説文を読む	第18回	コラムを読んで小論文を書く	
	第4回	新聞記事の読解～時事問題について考える	第19回	社説を読んで小論文を書く	
	第5回	新聞記事の要約～コラムをまとめる	第20回	投稿欄を読んで小論文を書く	
	第6回	新聞記事の要約～社説をまとめる	第21回	履歴書を書く～自己PR	
	第7回	漢字検定準2級に挑戦	第22回	履歴書を書く～志望動機	
	第8回	漢字検定2級に挑戦	第23回	エントリーシートを作成	
	第9回	語彙の修得～慣用句・ことわざ	第24回	新聞記事をテーマに自らの思いを口頭で伝える	
	第10回	語彙の修得～四字熟語・漢語	第25回	新聞記事をテーマに話し合う	
	第11回	敬語の基礎	第26回	前2回の成果を文章にまとめる	
	第12回	敬語の応用	第27回	インタビューを行う～受信力の養成	
	第13回	話し言葉と書き言葉	第28回	新聞記事の解説を聞き文章にまとめる～受信力の養成	
	第14回	手紙の書き方～基本	第29回	グループ内で討論を行う	
	第15回	手紙の書き方～礼状を書く	第30回	授業の成果を作文にまとめる	
授業に対する予習・復習	予習： 毎回の授業終了時に指示を与える。		復習： 授業の開始時に随時実施する前回の内容を問う確認テストで満点を取るよう徹底して行うこと。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>授業態度（100%）</p>				
教科書					
参考文献					
注意事項	試験は特に実施しないが、毎回の授業時に相当の量の課題に取り組むことになるので予習復習を確実にを行い各回のテーマを着実にクリアするよう心がけること。				

科目名	情報処理演習	単位数	2	担当教員	吉野 明美
授業の内容	<p>情報活用能力を培うため、Windows やアプリケーションソフトなど、基本的な情報処理の知識と技術の習得を目指します。</p> <p>具体的には、レポートやビジネス文書の作成、データ分析処理、プレゼンテーション資料の作成など、学生生活に必要なテクニック、そして社会人として知っておきたい情報知識を学びます。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● コンピュータについての理解を深める。 ● タッチタイピングを習得する。 ● インターネットを活用した情報の収集と整理ができる。 ● Microsoft Office (Word,Excel,PowerPoint) の基本操作ができる。 				
授業計画	第1回	Windows 基本操作の確認・ファイル管理	第16回	Excel① データ入力	
	第2回	Word① タイピング・基本的な文書作成	第17回	Excel② 表作成	
	第3回	Word② タイピング・図挿入と編集	第18回	Excel③ 表編集	
	第4回	Word③ タイピング・表挿入と編集	第19回	Excel④ 表印刷	
	第5回	Word④ タイピング・文書印刷	第20回	Excel⑤ グラフ作成	
	第6回	Word⑤ タイピング・ビジネス文書の基本形	第21回	Excel⑥ データベース操作	
	第7回	Word⑥ タイピング・表現力アップ機能	第22回	Excel⑦ 複数シート操作	
	第8回	Word⑦ タイピング・長文レポートの編集	第23回	Excel⑧ 関数の活用	
	第9回	Word⑧ 中間まとめ	第24回	Excel⑨ ユーザー定義	
	第10回	PowerPoint① 基本的なスライド作成	第25回	Excel⑩ 条件付き書式	
	第11回	PowerPoint② 特殊効果の設定	第26回	Excel⑪ 高度なグラフ作成	
	第12回	PowerPoint③ 効果的なグラフ作成	第27回	Excel⑫ ピボットテーブルの作成	
	第13回	PowerPoint④ 効果的な図解化	第28回	Excel⑬ データベースの活用	
	第14回	PowerPoint⑤ プレゼンテーション資料の作成 I	第29回	応用演習① アプリケーションの総合活用 I	
	第15回	PowerPoint⑥ プレゼンテーション資料の作成 II	第30回	応用演習② アプリケーションの総合活用 II	
授業に対する予習・復習	予習： タッチタイピングの習得		復習： 課題の完成		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施 (○) する / () しない</p> <p>課題 (30%)、実技 (40%)、授業態度 (30%)</p>				
教科書	『学生に役立つ Word & Excel & PowerPoint』(富士通エフ・オー・エム株式会社、FOM 出版)				
参考文献					
注意事項	<p>情報を適切に活用するための技能を養い、実践に活かせるスキルを習得するための授業です。</p> <p>基礎をしっかりと身につけて、スキルアップをしていきましょう。</p>				

科目名	日 本 文 化 論	単位数	2	担当教員	及川 道之
授 業 の 内 容	明治43年(1910)柳田國男によって刊行された『遠野物語』に収められている民話や昔話を読むことで、近代以前の人々のくらしと心性について考える。歴史が決して一部の人々に限られたものではなかったことを実感する。				
到達目標	民話や昔話の魅力について話すことができる。 近代以前の人々の思いに寄り添えるようになる。 歴史的想像力を豊かにする。				
授 業 計 画	第1回	授業を始めるにあたって			
	第2回	明治43年の日本と世界			
	第3回	遠野物語の序文に書かれたこと～柳田國男の思い			
	第4回	里の神・家の神たち～カクラサマ・オシラサマ			
	第5回	山の神・山人・山男			
	第6回	ザシキワラシと家の盛衰			
	第7回	天狗・カッパ			
	第8回	猿・狐・熊～さまざまな動物たち			
	第9回	狼～人との葛藤			
	第10回	異界としての山			
	第11回	この世との離別～最期に望むこと			
	第12回	富の獲得～マヨヒガ			
	第13回	山と海の交流			
	第14回	合戦・津波～歴史と伝説			
	第15回	授業の終わりに当たって～人々のくらしと思い			
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 滞りなく読めるよう練習をしておく。		復習： 書き込みやメモは資料として使えるよう、翌週までに整理してまとめておく。		
成 績 評 価 の 方 法	試験期間における定期試験： 実施 (○) する / () しない 筆記試験 (80%)、発表 (10%)、授業態度 (10%)				
教 科 書	『新版 遠野物語』(柳田國男、角川学芸出版)				
参 考 文 献	必要に応じて指示する。				
注 意 事 項	昔話や民話の類は本来語られていたので、授業では1話ずつ実際に声にして読み進めていくことになるので、普段から読む練習を心掛けること。				

科目名	女性文化論	単位数	2	担当教員	中西 希和
授業の内容	歴史を振り返ると、女性は地位や様々な権利を制限されてきたと言え、それは服装からも読み取ることができます。この授業では女性がこれまでどのような問題に直面し、取り組んできたのか、それによって女性の生き方がどのように変わってきたのかを当時の女性の服装から探っていきます。そして、様々な場面における女性の役割を考え、将来自立した女性として生きていく際に直面する諸問題に対応していく力を身につけることを目指します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・女性が築いてきた文化を知る。 ・取り上げるテーマを自分自身の問題として考える。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション			
	第2回	女性と教育 女子学校制服、女子大学の創立者と建学の精神			
	第3回	少女から女性へ 子ども服の歴史			
	第4回	女性の身体に対する意識の変化① スポーツウェアの歴史			
	第5回	女性の身体に対する意識の変化② 下着の歴史			
	第6回	服装におけるジェンダー① 女性解放運動			
	第7回	服装におけるジェンダー② スカート、パンツ、スーツ			
	第8回	日本人女性の服装 和装から洋装への変化			
	第9回	様々な結婚① 結婚式の種類			
	第10回	様々な結婚② 婚礼衣装の歴史			
	第11回	女性の働き方① アンペイド・ワーク			
	第12回	家庭経営と男女の役割			
	第13回	女性の働き方② ペイド・ワーク			
	第14回	女性の働き方③ 他国との比較 アメリカやヨーロッパの実態			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 授業で配布する資料をよく読み、復習するようにしてください。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（30%）、レポート（30%）、授業態度（40%）				
教科書	必要に応じ、プリントを配布します。				
参考文献	授業の中で随時、紹介します。				
注意事項	画像資料を紹介しながら授業を行うため、パワーポイント、DVDを使用します。				

科目名	風土と文化	単位数	2	担当教員	及川 道之
授業の内容	都が大和（現在の奈良県）の飛鳥の地に置かれていた時代からの歴史をたどる。文学作品に見られる多彩な表現と合わせて奈良や京都など「古都」のもつ魅力を明らかにするとともに、都という空間が現代に生きる私たちの感性に及ぼしている影響について考える。				
到達目標	古都の歴史的展開を理解する。 個々の都の特性を理解する。 歴史と風土に対する想像力をもつ。				
授業計画	第1回	授業の始まりに当たって			
	第2回	飛鳥のみやこ			
	第3回	うたわれた飛鳥			
	第4回	近江京と藤原京			
	第5回	藤原京から平城京へ			
	第6回	平城京の実像			
	第7回	平城京と寺社			
	第8回	東大寺と正倉院			
	第9回	平城京から長岡京へ			
	第10回	怨霊と長岡・平安京			
	第11回	古都と風水			
	第12回	平安京の寺社			
	第13回	平安京の怪異スポット			
	第14回	秀吉による平安京再建			
	第15回	平泉～北の「みやこ」			
授業に対する予習・復習	予習： それぞれの都の地理と大まかな歴史などを調べておく。	復習：	メモや書き込みなどは配布した資料とともに改めてノートに整理しておく。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（80%）、授業態度（30%） ※通常授業時に数回小テストを実施する。				
教科書					
参考文献	必要に応じて指示する。				
注意事項	万葉集を始めとした文学作品に加え、歴史書にも触れる機会が多いので地理を含めて多くの分野に関心を持つこと。この授業で学んだ内容は「文化を訪ねる」を受講する際に効果的である。				

科目名	地域文化を学ぶ	単位数	2	担当教員	及川 道之
授業の内容	所沢市と隣接する三芳町には江戸時代の開発で知られる「三富新田」と呼ばれる地域が現在でも残っている。三富地域農業振興協議会の活動に参加してこの地域に実際に足を運び農作業に参加することで、地域で育まれた歴史文化を学習する。				
到達目標	三富地域の歴史と文化を学ぶ。 三富地域の農作業を実際に体験する。 地域文化を後世に伝えられる1人であることを自覚する。				
授業計画	第1回	授業の開始にあたって			
	第2回	三富地域の地理と歴史			
	第3回	三富地域の今日的課題			
	第4回	現地での実習			
	第5回	現地での実習			
	第6回	現地での実習			
	第7回	現地での実習			
	第8回	現地での実習			
	第9回	現地での実習			
	第10回	現地での実習			
	第11回	現地での実習			
	第12回	現地での実習			
	第13回	現地での実習			
	第14回	現地での実習			
	第15回	授業の終了にあたって			
授業に対する予習・復習	予習： 三富地域、江戸時代の新田開発などに関心をもって、事前に調べておくこと。		復習： 特に必要としない。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 実技（50%）、授業態度（50%）				
教科書					
参考文献	必要に応じて指示する。				
注意事項	外部の方々と接する機会が多くなるので節度ある行動と協調性が求められる。現地には各自で集合すること。				

科目名	文化を訪ねる	単位数	2	担当教員	及川 道之
授業の内容	学内での4回の授業後、12月上旬に2泊3日で京都を訪れる。				
到達目標	オリジナルの旅程を作成できるようにする。 京都市内を滞りなく移動して歴史文化について語れるようになる。 オリジナルの旅行記を作成する。				
授業計画	第1回	授業の開始にあたって			
	第2回	行動計画をたてるために			
	第3回	実際に行動計画をたてる			
	第4回	旅行前の最終確認と諸注意			
	第5回	集中講義なので、第5回以降は2泊3日の現地での行動に替える			
	第6回				
	第7回				
	第8回				
	第9回				
	第10回				
	第11回				
	第12回				
	第13回				
	第14回				
	第15回				
授業に対する予習・復習	予習： 「風土と文化」を既に受講した者は、授業で配布した資料やノートを持参すること。	復習：	次回までに必要な資料の準備とノートを整理すること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（50%）、授業態度（50%）				
教科書					
参考文献	必要に応じて指示する。				
注意事項	掛け替えのない充実した時間を過ごせるよう、魅力的なプランの作成に努力すること。外部の様々な場所に足を運ぶことになるので、日頃からの受講態度によっては授業の登録を許可しない場合もある。				

科目名	文学の歩み	単位数	2	担当教員	相沢 浩通
授業の内容	古代から近世へと至る永く豊かな日本文学の歴史を通観します。しかし、半期という限られた期間に扱うのに対象はあまりに膨大です。よって、本講義では、物語史を中心に据え、神話、作り物語、歌物語、説話、軍記物語、御伽草子、仮名草子、浄瑠璃を取り上げます。				
到達目標	煩わしい古典文法や古語から解放されて大いに多くを読み、各時代の空気を味わうことができる。 人間というものへの理解を深め、人生をより豊かなものにすることができる。 誇るべき日本の文学、芸術、思想、歴史に親しみ、今後の読書と研究に役立てることができる。				
授業計画	第1回	『古事記』 イザナキとイザナミ 国生み・神生み			
	第2回	『古事記』 アマテラスとスサノオ 天の石屋			
	第3回	『日本書紀』 天地開闢			
	第4回	『竹取物語』 かぐや姫の昇天			
	第5回	『伊勢物語』 筒井筒			
	第6回	『大和物語』『平中物語』 生田川伝説 三角関係			
	第7回	『日本霊異記』 異類婚姻譚 仏教説話			
	第8回	『今昔物語集』 「藪の中」「羅生門」と芥川龍之介			
	第9回	『将門記』『陸奥話記』 平将門の敗死 安倍貞任の敗北			
	第10回	『保元物語』『平治物語』 幼な子らの処刑 悪源太雷化譚			
	第11回	『平家物語』『太平記』 平家の女人たち 北条一門の自害			
	第12回	『義経記』『曾我物語』 弁慶立往生 今剣(いまつるぎ) 仇討			
	第13回	御伽草子 一寸法師 浦島の太郎			
	第14回	仮名草子 浄瑠璃 一休ばなし 耳なし芳一 出世景清			
	第15回	総括			
授業に対する予習・復習	予習： 現代語訳の付いたテキスト(配布)を使用しますので、毎回下読みをして臨んでください。		復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施(○)する/()しない 筆記試験(60%)、授業態度(40%) 随時のミニ・レポートや質問への回答も含まれます。				
教科書					
参考文献					
注意事項	通史の把握のために、各時代の代表的作品のハイライト・シーンを順次読解してゆきます。現代語訳付きのテキストですので、古典は初めて…でも全く大丈夫。楽しく参加できます。 漫画化された古典作品や映像化された古典作品、参考になる歴史もの漫画等の紹介を随時してゆきます。 筆記試験に備えて、プリント、ノートはきちんと整備しておきましょう。				

科目名	古典文学を読む	単位数	2	担当教員	及川 道之
授業の内容	8世紀の初めに成立したと伝えられる『古事記』の上巻を中心に読み進める。神々の誕生から始まるさまざまな神の姿と国土の起源について語られた日本の神話を、丁寧に解説を加えながら詳しく読み解いていく。				
到達目標	神話とはそもそもどのようなものなのかを理解する。 古事記神話から日本の文化の特徴を理解する。 神の名とそれぞれの性格を理解する。				
授業計画	第1回	授業の始まりにあたって			
	第2回	古事記が成立した社会			
	第3回	「序文」を「読む」			
	第4回	天地初めて発けし時			
	第5回	大八島国の誕生			
	第6回	黄泉国訪問			
	第7回	禊と三貴子の誕生			
	第8回	アマテラスとスサノヲ			
	第9回	アマテラスの岩屋戸籠り			
	第10回	八俣の大蛇			
	第11回	出雲神話とオオクニヌシ			
	第12回	国譲り			
	第13回	天孫降臨			
	第14回	海幸彦と山幸彦			
	第15回	授業の終わりに当たって			
授業に対する予習・復習	予習： 予め本文を読み、疑問点や質問事項を明らかにする。		復習： 授業の際のメモや書き込みを次回までノートとして整理しておく。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（70%）、授業態度（30%） ※通常授業時に数回小テストを実施する。				
教科書					
参考文献	必要に応じて指示する。				
注意事項	日本神話を本格的に読むのはほとんど初めての経験になると思うので、自分にとって最良の資料集を作るくらいの意気込みで毎回ノートを整理しておくこと。				

科目名	古典文学を読む	単位数	2	担当教員	相沢 浩通
授業の内容	『平治物語』を講読します。平治元年(1159) 12月9日、宮廷内の権力争いを発端として勃発したクーデターは、源氏軍と平家軍の決戦となり、敗北した源氏方に数々の悲話を残しつつ、時代は驕(おご)る平家の世へと移行してゆきます。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 忠孝・武勇・潔さ・慈悲・もののあはれ。永きに亘り日本人が重んじてきたところを共有することができる。 2. 衣食住・戦闘と刀剣武具・信仰に関する歴史的知識を獲得して、「歴史もの」の小説・演劇・映画・アニメ・コミック・ゲーム等をより深く楽しむことができる。 				
授業計画	第1回	授業計画の説明、軍記文学の概観			
	第2回	『平治物語』の文学史上の位置と梗概			
	第3回	院政期の社会と平治の乱			
	第4回	『平治物語』講読、クーデターの勃発まで			
	第5回	『平治物語』講読、三条殿焼き討ち			
	第6回	『平治物語』講読、大内裏の攻防戦			
	第7回	『平治物語』講読、大内裏の攻防戦			
	第8回	『平治物語』講読、源氏の敗北			
	第9回	『平治物語』講読、義朝らの死			
	第10回	『平治物語』講読、常葉の逃避行			
	第11回	『平治物語』講読、常葉の逃避行			
	第12回	『平治物語』講読、常葉の出頭			
	第13回	『平治物語』講読、後日談 義平・頼朝ら			
	第14回	『平治物語』講読、後日談 常葉・義経ら			
	第15回	総括			
授業に対する予習・復習	予習： 現代語訳の付いたテキスト(配布)を使用しますので、毎回下読みをして臨んでください。		復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施 (○) する / () しない 筆記試験 (60%)、授業態度 (40%) 随時のミニ・レポートや質問への回答を含みます。				
教科書					
参考文献	『保元物語 平治物語 承久記』(栃木孝惟・日下力他校注、岩波書店)				
注意事項	講義形式をとりますが、指名して各自の解釈・意見を問うことが度々あります。 現代語訳の付いたテキストを使用しますので、古典は初めて…でも全く大丈夫です。 絵巻物等の絵画資料を活用して、平安時代の風俗(服装・武装・戦闘・信仰等)の解説に力を入れてゆきますのでお楽しみに。				

科目名	近代文学を読む	単位数	2	担当教員	柳井 まどか
授業の内容	日本の近代・現代を代表する、様々な小説家の短編小説を、読解・鑑賞する。 それぞれの作品の構成や言葉の働きが見えてくるような精読を目指し、小説の面白さを発見すると同時に、教室での意見交換を通して、主体的な読みを確立していく姿勢を身に付ける。				
到達目標	1. 基本的な近代文学の流れを説明できる。 2. 小説の構成を理解し、内容を正確に読み取ることができる。 3. 小説を主体的に読解し、人間の心のあり方や社会との関わりについて考察することができる。				
授業計画	第1回	里見弴『椿』： 近代文学入門／小説を読むということ			
	第2回	夏目漱石『夢十夜』： 漱石の初期作品における表現			
	第3回	田山花袋『少女病』： 明治末の時代状況と自然主義文学			
	第4回	同上 : 自然主義文学の表現			
	第5回	谷崎潤一郎『刺青』： 耽美派の特色とその意義			
	第6回	志賀直哉『范の犯罪』： 白樺派と大正期の文学			
	第7回	芥川龍之介『藪の中』： 芥川作品の構成と表現			
	第8回	江戸川乱歩『押絵と旅する男』： 幻想文学入門			
	第9回	同上 : 大正末～昭和初期の社会と乱歩の世界について			
	第10回	宮澤賢治『注文の多い料理店』： 童話の多様な読解の可能性と表現について			
	第11回	中島敦『悟浄歎異』： 昭和十年代の文学と「自意識」について			
	第12回	石川淳『焼跡のイエス』： 第二次世界大戦後の文学			
	第13回	三島由紀夫『海と夕焼』： 三島と昭和という時代			
	第14回	大江健三郎『不意の唾』： 大江作品の特色と新たな時代			
	第15回	近代文学まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 授業で扱う作品（プリント）を読んでくること。読めない漢字や意味の分からない語句を辞書で調べておくこと。	復習： 授業で取り上げた作品やテーマについて、自分なりに再考する他、関連作品や紹介された参考文献を読むこと。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（70%）、授業態度・発言による貢献度（30%）				
教科書	毎回、翌週扱う作品のプリントを配布する。				
参考文献	必要に応じて、授業中に紹介する。				
注意事項					

科目名	女性文学を読む	単位数	2	担当教員	柳井 まどか
授業の内容	この授業では、上古から近代に至る日本文学の中から、「女性と表現」をキーワードに、特色ある作品を読解していく。語る主体としての女性、作品の中に描かれた女性に注目し、文学作品を通して、各時代・社会の在り方と「女性」性の関係や問題点について理解し、考察を深めていく。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本文学の概略を理解し、主要な女性作者と作品の基本的な内容について説明できる。 2. 作品の内容を正確に読み取り、女性という観点から問題を発見できる。 3. 文学作品を通して、時代や社会制度と「女性」性の問題について主体的に考え、意見を形成することができる。 				
授業計画	第1回	女性文学入門： 「女性」という観点から読む日本文学概説			
	第2回	上古の女性文学： 『万葉集』の女性歌人			
	第3回	中古の女性文学①： 仮名文字の登場と日記・随筆文学			
	第4回	中古の女性文学②： 『竹取物語』の女性像			
	第5回	中古の女性文学③： 王朝文化と『源氏物語』			
	第6回	中世の女性文学： 『平家物語』の女性達			
	第7回	近世の女性文学： 近世文学の女性像 — 井原西鶴、近松門左衛門の描く女性達 —			
	第8回	近代の女性文学①： 明治社会と女性 — 二葉亭四迷『浮雲』に描かれたヒロイン —			
	第9回	近代の女性文学②： 女性作家 樋口一葉の登場			
	第10回	近代の女性文学③： 樋口一葉『たけくらべ』			
	第11回	近代の女性文学④： 樋口一葉『にごりえ』			
	第12回	近代の女性文学⑤： 与謝野晶子『みだれ髪』			
	第13回	近代の女性文学⑥： 森鷗外『半日』 — 明治の家族制度と女性 —			
	第14回	近代の女性文学⑦： 有島武朗『或る女』			
	第15回	女性文学 まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 授業で扱う作品（プリント）を読んできること。	復習： 授業で学習した文学史の知識を整理し、取り上げたテーマについて、自分なりに再考する他、紹介された参考文献を読むこと。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（70%）、授業態度・発言による貢献度（30%）				
教科書	必要に応じてプリントを配布する。				
参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。				
注意事項					

科目名	図書館概論	単位数	2	担当教員	矢代 寿寛
授業の内容	図書館の機能や社会における役割について講じます。歴史と現状について概観し、種類とそれぞれの利用者ニーズ、図書館員の役割、類縁機関との関係、今後の課題と展望について解説します。これまでのイメージを刷新し、職場としての図書館、社会の中の図書館という観点を獲得することを目指します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館についてのステレオタイプなイメージを改めることができる ・大学卒業後の人生の中での図書館と自分のかかわりを考えられるようになる ・他人に図書館のことを説明できるようになる 				
授業計画	第1回	履修案内、科目説明、図書館業務との関係			
	第2回	図書館の現状			
	第3回	図書館の社会的意義			
	第4回	図書館と知的自由			
	第5回	図書館の歴史1：世界の図書館			
	第6回	図書館の歴史2：日本の図書館			
	第7回	図書館の種類1：公共図書館			
	第8回	図書館の種類2：学校図書館			
	第9回	図書館の種類3：大学図書館			
	第10回	図書館の種類4：専門図書館			
	第11回	図書館の種類5：国立図書館			
	第12回	図書館員の役割1：概要			
	第13回	図書館員の役割2：種類別			
	第14回	図書館の類縁機関と利害関係者			
	第15回	図書館の今後とまとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 地元の図書館の利用 『カレントアウェアネス・ポータル』の閲覧			復習：	
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（70%）、小課題（30%）				
教科書					
参考文献	『図書館概論』（塩見昇編著、日本図書館協会、2012年） 『図書館情報学基礎（シリーズ図書館情報学）』（根本彰編、東京大学出版会、2013年）				
注意事項	国立国会図書館のウェブサイト『カレントアウェアネス・ポータル』を日常的に閲覧することが望ましいです。 成績評価は、4回ごとの小課題と期末レポートで行います。前回分の小課題は次回の冒頭に回収します。期末レポートが適切な形式でない場合は採点対象外になります。				

科目名	図書館サービス概論	単位数	2	担当教員	矢代 寿寛
授業の内容	図書館サービスは、時代・社会の変化に伴って変化を続けています。サービスの全体像と各サービスの基礎を講じます。加えて、現在提供されているサービスがなぜ提供されるようになったのかという背景解説、提供されなくなったサービスについての経緯説明、今後提供が期待されるサービスについての検討を行います。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館サービスの種類を理解し、使えるようになる ・サービスの提供に必要な準備について理解し、図書館職員側の視点を持つことができる ・生涯、図書館サービスを活用できるようになる 				
授業計画	第1回	履修案内、科目説明、図書館業務との関係			
	第2回	図書館サービスの概観			
	第3回	現代の図書館サービスの傾向・特徴			
	第4回	図書館サービスの歴史の変遷			
	第5回	図書館サービスの種類1：資料の提供			
	第6回	図書館サービスの種類2：情報の提供			
	第7回	図書館サービスの種類3：人材・場所の提供			
	第8回	図書館サービスの種類4：図書館ネットワーク			
	第9回	図書館サービスの種類5：特定利用者層向け1：児童			
	第10回	図書館サービスの種類6：特定利用者層向け2：その他			
	第11回	図書館サービスと法律の関係			
	第12回	図書館サービスと社会の関係			
	第13回	図書館サービスと図書館員の役割			
	第14回	情報サービスと図書館サービスの違い			
	第15回	図書館サービスの今後とまとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 地元の図書館の利用 地元の図書館のWebサイト閲覧 国立国会図書館のWebサイト閲覧			復習：	
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（90%）、課題（10%）				
教科書	無し				
参考文献	『図書館サービス概論（現代図書館情報学シリーズ4）』（宮部頼子編、樹村房、2012年）				
注意事項	図書館以外の公共施設が提供しているサービスを改めて意識することが望ましいです。 成績評価は、小課題と期末レポートで行います。小課題は期首に掲示します。期末レポートが適切な形式でない場合は採点対象外になります。				

科目名	社会人基礎講座	単位数	2	担当教員	松尾 信子
授業の内容	受講生がインターシップ実習や就職の際に必要なとされる知識や心構え、ビジネス・マナーやコミュニケーションについて学びます。実演やディスカッションを通して、確実に理解し、身につけていく方法で授業を進めてまいります。また、実社会で活躍している先輩の話の聞いたり、学外活動を通して、自分の成長が実感できる教科です。インターンシップでの学習効果を高めるために必須の教科であり、学科としては準必修科目の位置付けになります。				
到達目標	この講義では、次の3点を到達目標にしています。 ① 社会人としてのマナーやスキルを修得できる。 ② 社会人として必要な基本的知識とコミュニケーション能力を身につけることができる。 ③ 問題を発見し、解決する能力をそなえることができる。				
授業計画	第1回	オリエンテーション（授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明）			
	第2回	学生時代に何を準備しておくべきか（社会人に求められるものはなにか）			
	第3回	社会の潮流はどのように変化しているか（社会はいったい何を求めているか・先輩の話聞く①）			
	第4回	接遇の基本とは何か I （マナー研修「身だしなみ」「基本動作」について実践を通して学ぶ・先輩の話聞く②）			
	第5回	接遇の基本とは何か II （「言葉づかい」について実践を通して学ぶ）			
	第6回	コミュニケーションの基本とは何か I （なぜ、コミュニケーション能力が求められているかについて理解する）			
	第7回	コミュニケーションの基本とは何か II （「話す」「聴く」という二つの重要なスキルについて学ぶ）			
	第8回	コミュニケーションの基本とは何か III （「報告・連絡・相談」および「話し方」の心構えとポイントを学ぶ）			
	第9回	電話対応の基本（電話の特性を理解し、電話をかける時・受ける時のマナーについて習得する・先輩の話聞く③）			
	第10回	文書作成の基本（ビジネス文書および論文の作成の実践）			
	第11回	インターンシップと企業が求める人間像を知る （実践的な就業体験を通して得られるものを自らの将来に活かす）			
	第12回	学外活動に向けて、目的、取り組み内容、成果について考え、事前準備をする			
	第13回	学外活動			
	第14回	体験から学んだこと、解決すべき課題について話し合う			
	第15回	授業の総括と小テスト			
授業に対する予習・復習	予習： 新聞やテレビニュースに関心を持って接しましょう。	復習：	授業の中でレポート課題や演習課題について説明し、課題の提出（発表）を求めます。課題を通して復習を行います。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（30%）、課題（20%）、実技（20%）、授業態度（20%）				
教科書	『わかる！使える！ホスピタリティの教科書』（浦郷義郎、PHP 研究所）				
参考文献					
注意事項	1. 特別な理由のない限り全員受講してください。 2. レジュメやレポート課題は毎回インターネットで配信しますので、講義の際に忘れずに持参してください。 3. 授業は毎回、演習やグループワークを取り入れ、楽しく活発な授業内容にしたいので、皆さまもぜひ協力してください。				

科目名	インターンシップ	単位数	2	担当教員	山口 博美
授業の内容	インターンシップは社会人基礎講座の履修を前提としています。社会人としての基本的なマナーやコミュニケーション能力をしっかりと身につけた上で、実習を通して職業理解に努めます。インターンシップは、働くことの意味や責任を体感し、将来の職業選択に生かす絶好の機会です。また、実習生は外部の人から初めて本格的な評価を受ける機会に恵まれます。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先で自己の目標としたことが実践でき、成果を確認できるように努力する。それによってすべての項目で5段階評価の上位2段階を達成すること。 2. 第三者の評価を通して、自分を改めて見つめなおし理解すること。 				
授業計画	第1回	事前指導① インターンシップとは			
	第2回	事前指導② 職場でのコミュニケーション			
	第3回	実習			
	第4回				
	第5回				
	第6回				
	第7回				
	第8回				
	第9回				
	第10回				
	第11回				
	第12回				
	第13回				
	第14回				
	第15回	実習報告会			
授業に対する予習・復習	予習： 研修前に実習先の情報を収集しておきましょう。	復習： 実習日誌で課題としたことの翌日への対応を考えましょう。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 発表（20%）、実技（80%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	学校を代表して行くという自覚を持ってください。				

科目名	キャリアデザイン	単位数	2	担当教員	松尾 信子
授業の内容	みなさんはこれから長い人生の中で、就職活動を含むさまざまな節目において、自分の岐路を自分で選択しなくてはなりません。その中で仕事にかかわること、つまり職業選択、仕事に対する意識や能力の形成等について、自分自身が主体性をもって計画し、実行していくことがキャリアデザインです。この講義では、仕事や職場の理解、自己理解、人生設計、ケーススタディ等を通して、キャリアデザインについて理解を深めます。				
到達目標	この講義では、次の3点を到達目標にしています。 ① 生き生きとした仕事人生を実現するために、キャリアをデザインすることができる。 ② 「自分らしい仕事」を選択できるようになる。 ③ 就職活動に向けて、今後の課題を明確にすることができる。				
授業計画	第1回	オリエンテーション（授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明）			
	第2回	キャリアデザインとは何か（キャリアデザインの基礎を理解する）			
	第3回	現代人のライフサイクルを考える（社会環境の変化と女性の社会進出について理解する）			
	第4回	経済的側面と精神的側面からキャリアデザインについて学ぶ（経済的自律と精神的満足について理解する）			
	第5回	多様化する職業観について考える（働き方や働く意味が多様化していることを認識する）			
	第6回	仕事の業種や働くスタイルを知る__その1（働き方や雇用形態を理解する）			
	第7回	仕事の業種や働くスタイルを知る__その2（業種や職種について理解する）			
	第8回	年齢段階別キャリアデザインの方法を学ぶ（大学生活での行動やインターンシップの活用がキャリア形成に影響することを学ぶ）			
	第9回	社会人に必要とされる基礎力について理解する__その1（どのような仕事においても必要となる能力について理解し、自己の能力をチェックする）			
	第10回	社会人に必要とされる基礎力について理解する__その2（自己の能力をチェックし、基礎力の身につけ方を考える）			
	第11回	自己理解__1 キャリア・アンカーを考える （シャインの「3つの問い」について内省し、仕事における自己イメージを確立する）			
	第12回	自己理解__2 キャリアデザインの能力的側面を考える （基礎力と専門力の視点から、在学中に取り組むべき課題を明らかにする）			
	第13回	自分のキャリアデザインをつくる（時系列的にイメージと能力を明確にし、これからの目標を設定する。そして、大学生活における目標達成のための行動計画を立てる）			
	第14回	① グループセッション（グループ内で各自キャリアデザインを発表しあうことにより、相互啓発を行う） ② 自己のキャリアデザインを再構築する			
	第15回	① クラス全員に向けて、各自のキャリアデザインを発表する ② 授業の総括			
授業に対する予習・復習	予習： レジュメは毎回インターネットで配信しますので、事前に印刷して、必ず目を通してから授業に参加してください。	復習：	授業の中でレポート課題や演習課題について説明し、課題の提出（発表）を求めます。課題を通して復習を行います。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（40%）、発表（40%）、授業態度（20%）				
教科書	『キャリアデザイン入門Ⅰ 基礎力編』（大久保幸夫、日本経済新聞出版社）				
参考文献	『13歳のハローワーク』（村上 龍、幻冬舎）				
注意事項	1. 時間厳守です（始業時間に遅れて教室に入らないでください）。 2. レジュメやレポート課題は毎回インターネットで配信しますので、講義の際に忘れずに持参してください。 3. 授業は毎回、演習やグループワークを取り入れた全員参加型です。積極的に参加する姿勢を評価します。楽しく活発な授業内容にしたいので、皆さまも積極的に協力してください。				

科目名	敬語とコミュニケーション	単位数	2	担当教員	柴田 かおる
授業の内容	敬語を使う理由と使わない理由を明確にする。講義では、初めに基本的な敬語のルールを学習。その上で、敬語を使う状況を具体的に色々取り上げ、場面ごとに何が一番適切な敬語の使い方になるのか観察、分析し、正しく敬語が使えるようになるまで繰り返し、訓練する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・尊敬語を正しく使う ・謙譲語を正しく使う ・丁寧語を使ってもいい場合を理解する ・美化語を適切に使うことを理解する ・敬語以外の表現で敬意を表すことを覚える 				
授業計画	第1回	なぜ敬語は必要なのか—現代社会における敬語の考え方について、考察。具体的なケースを提示しながら敬語を使うことで、コミュニケーションの取り方がどう変わるか自ら判断できるようにする。			
	第2回	謙譲語の基本的な決まり事を学ぶ。謙譲語は自分の行為を表現することであることを徹底的に繰り返して練習することで、自然に使えるようにする。			
	第3回	謙譲語の表現の中でも、丁寧語に近い表現を学ぶ。具体例を示しながら第2週で学んだ謙譲語との違いを理解する。			
	第4回	謙譲語と、尊敬語を混同して使わないように、具体例を示しながら学ぶ。動詞の変化を見れば、主語が省かれていても謙譲語と尊敬語の違いが分かることを反復練習で覚える。			
	第5回	ウチとソトという人間関係の区切りを念頭に、ソトの人間に対しては自分のウチ側にいる人間の行為について謙譲語を使うことを繰り返し練習。			
	第6回	尊敬語の基本的な決まり事を学ぶ。尊敬語は自分以外の人物の行為を表すものであることを徹底的に繰り返して練習することで、自然に使えるようにする。			
	第7回	尊敬語を適切に使い、公道に張り出す告知文、公共施設での規則遵守を依頼する原稿を自ら書いてみる。状況を設定して、学生同士で尊敬語を使ってみる。			
	第8回	尊敬語の表現の中でも、人間関係を表す単語や、社会的地位を表す単語などの名詞を中心に学ぶ。更に敬意を表する宛名書きのルールも覚える。			
	第9回	丁寧語の基本的な決まり事を学ぶ。丁寧語は、主語が人間以外でも使えること、尊敬語や謙譲語ではなく、丁寧語でいい場合はどういった場合かを学ぶ。			
	第10回	「お、ご」の使い方、改まり表現を学ぶ。それぞれ、実際に学生自身が使って表現してみる。過剰に「お、ご」を使わずに話すことも訓練する。			
	第11回	クッション語をうまく使うことで、人間関係に配慮した敬語の使い方を身につける。実際に社会生活の中でクッション語が求められる状況を各自調べて、それにふさわしいクッション語を発表する。			
	第12回	所謂バイト語について解説。何故敬語の間違ひの中でも、バイト語として括られる表現が、不快感を与えるのか考察する。実際に学生たちがよく使う、間違った敬語を挙げてもらい、それについて、自ら誤りを見つけて正しい言い方を学ぶ			
	第13回	人に物を依頼する場合、要求を断る場合、引き受けることが不可能であることを伝える場合について、具体的な状況を想定して、敬語を練習する。いきなり「出来ません」と言わずに、できないことを相手が心から納得する言い方でどう伝えるか学ぶ。			
	第14回	初対面の人間に対応する場合、クレームに対応する場合、自己紹介をする場合に、適切な敬語を使って表現してみる。			
	第15回	試験・試験の解説を通じて、過去14回の講義の復習を行う。よく間違える場所を特に繰り返して復唱する。			
授業に対する予習・復習	予習： 機械的に敬語のルールを暗記するのではなく、自分の頭で相手との距離を測りながら話すようにして欲しい。	復習： 予習よりも復習に重点を置くこと。その日の授業で配布したテキストを必ず読み直すこと。			
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施 (○) する / () しない</p> <p>筆記試験 (90%)、レポート (5%)、授業態度 (5%)</p> <p>筆記試験は授業で学んだテキストから特に多くの学生がよく間違える項目を重点的に問う。授業中に提出するレポートも評価の対象とする。</p>				
教科書	その都度プリント配布				
参考文献	その都度授業で提示 (敬語の考え方や使い方は時代を反映して変わってきているため、最新の情報を伝えるため)				
注意事項	授業中は実際に敬語を使って話したり書いたりしてもらおう。プリントは1回しか配布しない。学期末まで使用するので、毎回持参すること。私語厳禁。携帯電話は切ってから授業に臨むこと。				

科目名	ホスピタリティ論		単位数	2	担当教員	松尾 信子
授業の内容	<p>社会人として必須のホスピタリティについて理解し、おもてなしの原点から身だしなみ・表情・お辞儀・基本動作について学びます。</p> <p>今、私たちのまわりにはモノがあふれています。また、IT化が進み、人の心が失われていく傾向にあります。このような社会においては、心の豊かさやおもいやりが大切になってきます。相手に夢や感動を与えるために、自分は何をすべきかということを考え、体験し、実践していきます。</p>					
到達目標	<p>この講義では、次の3点を到達目標にしています。</p> <p>① ホスピタリティ・マインドとは何かについて理解できる。</p> <p>② 相手に夢や感動を与えるために、自分は何をすべきかということを考えて主体的な言動が取れる。</p> <p>③ 学内や学外活動（学園祭・インターンシップ・アルバイト等）においてホスピタリティを実践できる。</p>					
授業計画	第1回	① オリエンテーション（授業の進め方・心構え・レジュメの発信・レポートの提出・採点方法などの説明） ② おもてなしの原点を知る（老舗企業、茶道・華道、日本料理にも「おもてなしの心」が反映されていることを学ぶ）				
	第2回	① 「サービス」と「ホスピタリティ」の違いとは何か（ディズニーランドと一般企業の取り組みを例として、ホスピタリティの本質について理解する） ② 学園祭におけるホスピタリティの実践について全員で考える				
	第3回	① 周囲の人間に「喜びと感動」を与えるためにはどうすべきか_I（「真実の瞬間」の重要性を学ぶ） ② 学園祭において、お客さまに「最高の瞬間」を提供するためにはどうすればよいか、について全員で意見を出し合う。				
	第4回	① 周囲の人間に「喜びと感動」を与えるためにはどうすべきか_II（「真実の瞬間の連続性」について、事例を通して理解する） ② 学園祭におけるホスピタリティの実践について発表する（実践内容とお客さまの反応について確認する）				
	第5回	① お客さまの生涯価値はどのくらいか（お客さま離れの恐ろしさとクレーム処理について学ぶ）				
	第6回	① お客さまは「顧客」ではなく「個客」である（お客さまの要望は一人ひとり違っている）ことを理解する				
	第7回	① ホスピタリティの視点から接遇を考える（「身だしなみ」「表情」「お辞儀」「基本動作」）				
	第8回	① ホスピタリティの視点からコミュニケーションを考える（「話す」と「聞く」、「コミュニケーション・スタイル」）				
	第9回	① 学生から社会人への意識改革（社会人に求められる資質や能力とは何かを知り、それらの視点から、自己の強みと弱みを確認する）				
	第10回	① お客さまの求める本当の価値とは何か（純顧客価値を高めるためにはどうすればよいかを学ぶ）				
	第11回	① お客さまに生涯顧客になっていただくためにはどうすべきか（スマートパワーこそが最高のパワーであることを理解する）				
	第12回	① 企業の「見えざる資産」とは何か（組織が重視する資産の比重が変わっていることを認識する） ② 学外活動におけるポイントを確認する				
	第13回	学外活動による現場研修 I （一般的な店舗を見学することによって、ホスピタリティがどのように実践されているかを体感する）				
	第14回	学外活動による現場研修 II （お客さま満足度の高い店舗を見学することによって、ホスピタリティがどのように実践されているかを体感する）				
	第15回	学外活動の感想発表（学外活動を通して体験したこと、気づいたことを発表しあう。そして、各人がホスピタリティあふれる言動が取れるように、今後の目標を設定する） 小テスト				
授業に対する予習・復習	予習：	レジュメは毎回インターネットで配信しますので、事前に印刷して、必ず目を通してから授業に参加してください。	復習：	授業の中でレポート課題や演習課題について説明し、課題の提出（発表）を求めます。課題を通して復習を行います。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>筆記試験（30%）、課題（40%）、授業態度（30%）</p>					
教科書	『わかる！使える！ホスピタリティの教科書』（浦郷義郎、PHP 研究所）					
参考文献						
注意事項	<p>1. 時間厳守です（始業時間に遅れて教室に入らないでください）。</p> <p>2. レジュメやレポート課題は毎回インターネットで配信しますので、講義の際に忘れずに持参してください。</p> <p>3. 授業は毎回、演習やグループワークを取り入れた全員参加型です。積極的に参加する姿勢を評価します。楽しく活発な授業内容にしたいので、皆さまもぜひ協力してください。</p>					

科目名	プレゼンテーション	単位数	2	担当教員	山口 博美
授業の内容	プレゼンテーションの効果が、世界を感動させ、社会を変えることがある。 自己表現力の最終段階のスキルとして、自己の意見や感情、企画や効果について訴え、相手に正しく理解してもらい行動させる力が、プレゼンテーションの魅力である。その魅力を講義で理解し、演習でスキルを身につける。				
到達目標	1. 講義を十分理解し演習に積極的に参加する。、複数あるいは個人でのプレゼンテーション体験からその魅力を知り、他の授業や就職活動に生かそうと意識できる。 2. 基礎知識を身につけ、声の出し方、表情等の自己の魅力的な身体表現を知りさらなるスキルを体得できる。 3. 相手に納得してもらえる、内容豊かなプレゼンテーションを作成、実施できるスキルを身につける。				
授業計画	第1回	オリエンテーション 講義の概略説明・目標・受講のルール・評価基準・質問と自己紹介シートを作成			
	第2回	プレゼンテーションの醍醐味 (講義) 映像で見るプレゼンテーション (演習) 自己紹介			
	第3回	プレゼンテーションの効果 (講義) 世界を動かす、変えるプレゼンテーションの魅力とは (演習) 感想発表			
	第4回	プレゼンテーションへの挑戦 (講義) 必要の発生、計画までの流れを理解 (演習) 複数者での計画討議 題材の決定			
	第5回	プレゼンテーションのスタート (講義) 新聞からアイデアの出し方 (演習) 紙上マッピング、ブレンストーミング			
	第6回	具体的なプレゼンテーション計画 (講義) 立案概要と情報収集 (演習) グループの目的・対象者・効果・情報のまとめ			
	第7回	プレゼンテーションの魅力 (講義) ニュースから見える社会 (演習) メディアゲーム グループで記事発表			
	第8回	プレゼンテーションの魅力 ① (講義) メディアから考えること (演習) 選んだニュースの伝え方、説明と表現の誤解、歪曲			
	第9回	グループ発表と質疑応答 双方向のコミュニケーションとプレゼン効果を知る。他者の視点と応答のしかたの重要性を理解			
	第10回	自己の体験・特技・夢についてプレゼン企画 (演習) 個人の企画・立案計画作成・自己分析と将来の展望			
	第11回	プレゼンテーションの魅力 ② (演習) 自己企画の作成 視覚効果を使うプレゼンの準備			
	第12回	プレゼンテーションの魅力 ③ (演習) 作成。PP、ホワイトボード、模造紙、ポスター、レジュメや資料作成			
	第13回	プレゼンテーションの魅力 ④ (演習) 個人発表と評価			
	第14回	プレゼンテーション ビジネス編 (講義) 企業への企画・提案 (演習) グループで討議 新商品企画、広告企画			
	第15回	グループ発表と評価 全体のまとめ			
授業に対する予習・復習	予習： ワークシートに記入して、講義の内容を把握、毎回の課題に沿って自己の考えをまとめる。		復習： その日の感想と質問を記述し提出する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（20%）、発表（50%）、授業態度（30%）				
教科書	オリジナルテキスト『プレゼンテーション』（山口博美、NCL出版）				
参考文献					
注意事項	毎回、演習を行い参加型実践力を重視します。				

科目名	社会人の書写	単位数	2	担当教員	土屋 明美
授業の内容	<p>毎時間、教科書のお手本を課題にして、練習と清書を繰り返します。</p> <p>鉛筆を使用した基本的なかな文字の書き方から、筆を使用したはがきの書き方まで行います。</p>				
到達目標	<p><ひらかな>を中心に基本的なかな文字を学び、それを履歴書・封書・手紙などに書けるように創意工夫し、日常生活の中に生かすことができることを到達目標とします。</p>				
授業計画	第1回	ガイダンス…授業の進め方			
	第2回	「いろは歌」	①練習		
	第3回	〃	②清書		
	第4回	「履歴書を書く」	①練習		
	第5回	〃	②清書		
	第6回	「封書の書式」	①練習		
	第7回	〃	②清書		
	第8回	「手紙によく使われることば」	①練習		
	第9回	〃	②清書		
	第10回	「便箋を書く」	①練習		
	第11回	〃	②清書		
	第12回	「はがきの書式」	①練習		
	第13回	〃	②清書		
	第14回	「はがきを書く」(自由制作)	①練習		
	第15回	〃	②清書		
授業に対する予習・復習	予習： 授業中に配布するプリントを予習しておくこと。		復習： 授業中に配布するプリントを復習しておくこと。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>課題（50%）、作品（25%）、授業態度（25%）</p>				
教科書	随時、プリントを配布いたします。				
参考文献	随時、参考文献を紹介いたします。				
注意事項	<p>・「書写」（かな）に関心を持って授業に臨むことを希望します。</p> <p>・用具・用材について</p> <p>☐鉛筆、小筆（最低一本）☐硯（一面）☐墨（一丁/墨汁はできるだけ避けたほうがよい）</p> <p>☐下敷（書道用フェルト）☐文鎮 ☐水滴（スポイドも可）☐雑巾（一枚）☐古新聞紙（数枚）☐半紙（毎回最低10枚・かな用は薄い半紙またはロールが望ましい）など</p>				

科目名	コミュニケーション論	単位数	2	担当教員	山口 博美
授業の内容	<p>家庭、学校、職場などあらゆる場に適応する能力を身につけ、自分を表現してはじめて自己を確立できます。そのためにコミュニケーション、ディスカッション、ディベート、自己開発という4つのテーマで実践中心の参加型授業を行います。「実践→講義→振り返り」という順序でおこない、まず楽しみながらゲームを進めて自分の話し方、聴き方、考え方や行動のパターンに気がきます。実践ゲームは、スパイゲームや謎解きゲーム、クイズや脳力開発問題など多彩で活気ある講義となりますので、積極的に参加してほしいと思います。また心理学を基礎としていますので、現在の自分の捉われや問題にも向き合い、自分を変えられると気づいてください。自分の可能性を切り開く力をつけてよい人間関係を築くことができます。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他者の話を聴く力（傾聴力）と自己を開示してどんな場所でも話せる力、自己表現力を身につける。 2. 他者に共感する力を身につけよい人間関係を作れる。 3. 自分を解放し、今の自分のよいところを伸ばし自己を認める気持ちを持つ。 				
授業計画	第1回	コミュニケーション論 オリエンテーション 講義の目的、特徴と目標設定、受講する上での約束ごと			
	第2回	コミュニケーションの意味 (1) 話すこと・聴くこと・観察すること			
	第3回	コミュニケーション能力 (2) リレーションゲーム 「匠の里」			
	第4回	コミュニケーション能力 (3) インタビューゲーム 傾聴力とは・・・			
	第5回	ディベート (1) 意義と進め方 ブレインストーミングでテーマに迫る			
	第6回	ディベート (2) テーマ設定 少子化対策について 国と企業・男性意識			
	第7回	ディスカッション その意義と効果 (1) ゲーム 「就職意識調査」			
	第8回	ディスカッション (2) ゲーム 「船長の決断」			
	第9回	ディスカッション (3) P o P o ゲーム 「秋草党の立候補」			
	第10回	自己を見つめる (1) 自己分析 「私とは・・・」			
	第11回	自己を見つめる (2) 作文 自己PR			
	第12回	自己開発 (1) ライフプラン作成 「10年後の私」「栄光の日」			
	第13回	自己開発 (2) 心理テストと職業テスト			
	第14回	自己開発 (3) 自己開発を発表する準備			
	第15回	自己開発 (4) 発表と評価			
授業に対する予習・復習	予習：	テキストを読み、講義内容を事前に理解しておく。	復習：	課題を発表できるように内容を検討し練習をしてくる。	
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： () する / (○) しない</p> <p>課題 (10%)、発表 (50%)、実技 (20%)、授業態度 (20%)</p>				
教科書	『コミュニケーション論』(山口博美、NCL出版局)				
参考文献					
注意事項	<p>試験を実施せず、毎回のゲームの参加や発表態度、課題を重視し総合点でつけます。ゲームは、欠席人数が多いと実施できません。グループの迷惑とならないよう欠席や遅刻に注意をお願いします。</p>				

科目名	異文化コミュニケーション	単位数	2	担当教員	松尾 信子
授業の内容	日本では当たり前なことでも、外国では通用しないことが数多くあります。また、同じ日本人同士でも、性別、年齢、職業、社会的立場、出身地によって文化や価値観に違いがあります。これらの文化的背景を異にする者同士が相手に敬意を払い、相手の考え方や立場からコミュニケーションを取ることを異文化コミュニケーションといいます。この授業では、複数の地域の文化を考える力を養い、文化の交流や融合に積極的に取り組む姿勢や態度を身につけます。				
到達目標	この講義では、次の3点を到達目標にしています。 ① 世界の国々にはさまざまな文化の違いがあることを理解できる。 ② 異文化の人びとに日本の魅力を伝えることができる。 ③ 外国語に関心をもち、異文化の人びととコミュニケーションが取れるようになる。				
授業計画	第1回	オリエンテーション（授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明）			
	第2回	① 異文化について理解を深める ② 2020年の東京オリンピック&パラリンピックに参加予定の国について調べる (1) __分類			
	第3回	① 新聞やニュースから海外の情報を集め、その内容を理解する ② 2020年の東京オリンピック&パラリンピックに参加予定の国について調べる (2) __地域研究			
	第4回	① 2020年の東京オリンピック&パラリンピックに参加予定の国について調べる (3) __歴史研究			
	第5回	① 課題発表（グループごとに歴史研究の内容を発表し、異文化に対して理解を深める）			
	第6回	① 世界の状況を反映した映像を見る（宗教・文化・芸術などに関する内容） ② 2020年の東京オリンピック&パラリンピックに参加予定の国について調べる (4) __宗教・文化・芸術研究			
	第7回	① 課題発表（グループごとに宗教・文化・芸術研究の内容を発表し、異文化に対して理解を深める）			
	第8回	① 世界の状況を反映した映像を見る（政治・教育・産業などに関する内容） ② 2020年の東京オリンピック&パラリンピックに参加予定の国について調べる (5) __政治・教育・産業研究			
	第9回	① 課題発表（グループごとに政治・教育・産業研究の内容を発表し、異文化に対して理解を深める）			
	第10回	① 日本の歴史や文化等を通して、自国を見直す ② 外国語の日常&旅行会話習得（挨拶）			
	第11回	① 自己のアイデンティティを知る ② 外国語の日常&旅行会話習得（自己紹介）			
	第12回	① 日本語を磨く (1) __コミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション ② 外国語の日常&旅行会話習得（基本単語）			
	第13回	① 日本語を磨く (2) __伝えるべき内容をもつ、相手に的確に伝える、相手が何を伝えようとしているかを理解する ② 外国語の日常&旅行会話習得（基本フレーズ）			
	第14回	① 海外から日本を訪れるお客さまとコミュニケーションを取る際の注意点や心構えのポイントを考える ② 外国語の日常&旅行会話習得（質問に対する回答）			
	第15回	① 新聞やニュースから現在の世界の状況を把握する ② 授業の総括と演習（発表と意見交換）			
授業に対する予習・復習	予習： レジュメは毎回インターネットで配信しますので、事前に印刷して、必ず目を通してから授業に参加してください。	復習： 授業の中でレポート課題や演習課題について説明し、課題の提出（発表）を求めます。課題を通して復習を行います。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（40%）、発表（40%）、授業態度（20%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	1. 時間厳守です（始業時間に遅れて教室に入らないでください）。 2. レジュメやレポート課題は毎回インターネットで配信しますので、講義の際に忘れずに持参してください。 3. 授業は毎回、演習やグループワークを取り入れた全員参加型ですので、楽しく活発になるように協力してください。				

科目名	アナウンス表現演習		単位数	2	担当教員	柴田 かおる
授業の内容	この講義では正しい発声をするために必要な呼吸法、はっきりと大きな声で話す方法、相手が聞きやすい発音を指導する。また人に伝わる話し方の組み立てを繰り返し行い、最終的には人前で自分の考えを分かりやすく話せるように訓練する。特に、就職試験の面接や社会人になった時に必ず求められる自己紹介は徹底的に練習して、誰よりも印象的に本人の長所が伝わるようになるまで行う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りやすい発音の仕方を身につける。 ・同じ部屋にいる人間がすべて聞き取れるくらいの音量で話せるようにする。 ・何が言いたいか、明確な話の組み立て方を覚える。 ・好印象を与える自己紹介の方法ができるようにする。 					
授業計画	第1回	腹式呼吸で声を出す方法 実際に決められた時間で自己紹介をする為に、話す内容を整理して発表する。				
	第2回	腹式呼吸で声を出しながら「あ行～さ行」の活舌の訓練をする。 2分間で自己紹介をしてみる。				
	第3回	腹式呼吸で声を出しながら「た行～は行」の活舌の訓練をする。 自分が現在一番興味のあることについて、具体的に話す内容をまとめる。				
	第4回	腹式呼吸で声を出しながら「ま行～わ行」の活舌の訓練をする。 自分が現在一番興味のあることについて、まとめた原稿を読んで発表する。				
	第5回	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習文を声に出して読む。 地図を使って、ある場所への行き方の説明をする。				
	第6回	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習文を声に出して読む。 自分だけが知っている場所へ、最寄駅から行く方法をわかりやすく説明する。				
	第7回	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習文を声に出して読む。 自分だけが知っている持ち物について、それを見たことがない人に正確に伝える。				
	第8回	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習文を声に出して読む。 第7週で発表した内容について、発表者以外の学生は疑問点を指摘する。発表者は全員が分かるように再度発表する。				
	第9回	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習文を声に出して読む。 目の前にいる人物の服装を正確に伝える原稿をまとめる。要点を発表する。				
	第10回	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習文を声に出して読む。 第9週でまとめた原稿を読んで、発表する。聞きやすく読めるまで繰り返す。				
	第11回	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習文を声に出して読む。 自分の長所について、原稿をまとめ、2分間で話す。				
	第12回	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習文を声に出して読む。 自分の得意なことについて、原稿をまとめ、2分間で話す。				
	第13回	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習文を声に出して読む。 自分が卒業後にやりたいことについて、原稿をまとめ、2分間で話す。				
	第14回	腹式呼吸による発声練習、活舌の練習文を声に出して読む。 聞いてほしい、ちょっといい話について、2分間のスピーチをして、録音。自分の話し方を客観的に理解する。				
	第15回	これまで授業で訓練してきた発表方法を踏まえながら、2分間の再度自己紹介をし、初回での発表との違いを比較。授業の成果を見る。				
授業に対する予習・復習	予習： 次回のテーマについて必ず原稿を書いて、自宅で読む練習をしてくること。		復習： 授業で指摘された発表や読み方について、自習すること。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 発表（50%）、授業態度（50%） 毎回授業中に発表を行うが、評価の対象とする 特に最終回における発表は、学年末試験に代わるものとするため、必ず出席のこと。					
教科書	その都度テキスト配布					
参考文献	各放送局で使用のアナウンス研修資料使用（この中から抜粋して配布）					
注意事項	声をきちんと出すには授業開始時間から順を追ってウォーミングアップが必要。時間どおりに出席すること。また、満腹状態では声が出ない為、授業前に食べ過ぎないこと。他の学生の発表を聞いて、それについて自分の考えを述べることも大切な学習なので、私語は厳禁。携帯電話の電源は必ず切って授業に臨むこと。					

科目名	ボランティア活動	単位数	2	担当教員	中西 希和
授業の内容	地域社会とのつながりをボランティア活動を通して築きあげていくとともに、ボランティア活動の社会的な必要性を認識し、社会の構成員として状況に応じて果たすべき役割といったものについて実践を通して考えていきます。				
到達目標	ボランティア活動では毎回、活動日誌を作成します。これによって、日々の活動をとらえなおすことや活動に対する評価等を客観化できるようになることです。				
授業計画	第1回	オリエンテーション			
	第2回	ボランティア先の調査・研究、計画作成			
	第3回	計画への評価、ボランティア活動で目指すもの			
	第4回	<p>ボランティア活動 積極的にボランティアに参加し、実習を行う。 ボランティア参加後は、必ず記録を残しておく。</p>			
	第5回				
	第6回				
	第7回				
	第8回				
	第9回				
	第10回				
	第11回				
	第12回				
	第13回				
	第14回	報告会			
	第15回	報告会の講評、活動日誌の提出			
授業に対する予習・復習	予習： 活動の具体的な内容についてあらかじめ調べておきましょう。		復習： 日誌で活動のチェックをしましょう。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 発表（20%）、実技（80%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	自ら行動する習慣を身につけましょう。				

科目名	マンガ・イラスト表現 I	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
授業の内容	マンガは絵と物語の両方を合わせた世界なので、デッサン、キャラクター、背景、パースなどの基本を複合的に進めていく形になると思います。 イラストもまた物語性を理解することによって創作の幅が広がるものと考えて大きな区別はありません。				
到達目標	人物の顔と表情が描き分けられるようにし、いろんなキャラを描けるようになること。 人物の全身は難しいですが、チビキャラでバランスを理解し描けるようになること。 人物に合わせて背景も描けるためのパースの基礎を理解できるようになること。				
授業計画	第1回	【○と□を描こう】円と四角をちゃんと描けることが基本の基本。			
	第2回	【いろんな表情を描こう】表情が変化するパターンを学ぶ。			
	第3回	【喜怒哀楽の表情を描こう】感情表現を理解する。			
	第4回	【二頭身キャラを描こう】シンプルなマスコットキャラを描く。			
	第5回	【二頭身キャラのアクション】マスコットキャラにアクションを持たせる。			
	第6回	【三頭身キャラを描こう】ちびキャラを描く。			
	第7回	【三頭身キャラのアクション】ちびキャラにアクションを持たせる。			
	第8回	【一点透視図法を学ぼう】パースを理解する。			
	第9回	【二点透視図法と三点透視図法を学ぼう】パースを理解するの二回目。			
	第10回	【顔の角度を変えて描いてみよう】いろんな角度で顔を描けるようになる。			
	第11回	【倒れた瓶を模写してみよう】模写の仕方を学ぶ。			
	第12回	【シワの描き方を学ぼう】服などのシワの理屈を学ぶ。			
	第13回	【六頭身キャラを描いてみよう】シリアスサイズのキャラを学ぶ。			
	第14回	【全身で感情表現してみよう】感情とアクションを全身で描く。			
	第15回	【色を塗ってみよう】カラー表現を学ぶ。			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： シンプルな課題は自宅で反復練習することによってより上達していきます。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（30%）、作品（20%）、実技（30%）、授業態度（20%）				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				
注意事項					

科目名	マンガ・イラスト表現Ⅱ	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
授業の内容	背景、パースなどの基本内容を復習しながら更に模写の技術、線画の技術などを深めていく内容になっています。課題もより創作に近づけた内容になっていきます。				
到達目標	表現の仕方のコツを学び、理解力の幅を広げていけるようになること。 人物はチビキャラから更に進めて5頭身～8頭身のサイズで描けるようになること。 背景も単純な形状から俯瞰、アオリを含めた複雑な描写と、透視図法を理解出来るようになること。				
授業計画	第1回	【人体の構造を学ぶ】 骨格の構造などの理解。			
	第2回	【六頭身キャラを描こう】 人物の動作を六頭身で描きます。			
	第3回	【模写の仕方を学ぶ】 大きさを変えて物を模写する。			
	第4回	【線の強弱のつけ方を学ぶ】 線による表現力の違いを学びます。			
	第5回	【ショットサイズを学ぶ】 人物のサイズによる表現を学びます。			
	第6回	【五段階の影のつけ方】 陰影のつけ方を学びます。			
	第7回	【友だちを描いてみよう】 実在の人物をキャラにしましょう。			
	第8回	【花びら&布の表現を学ぶ】 裏表の表現を理解しましょう。			
	第9回	【シワの描き方】 皺の理解を学びましょう。			
	第10回	【服の描き方】 いろんなコスチュームを描いてみましょう。			
	第11回	【複数キャラを描こう】 脇役をうまく描いてみましょう。			
	第12回	【文字から立体を理解する】 文字も絵にしてみましょう。			
	第13回	【俯瞰とあおりと平行】 視点の理解を進めます。			
	第14回	【カメラワークを学ぶ】 映像的理解を進めます。			
	第15回	【色を塗ろう②】 オリジナルの絵に色を塗りましょう。			
授業に対する予習・復習	予習： 人物や静物のデッサンは重要ですが、授業だけでは時間が少ないので、各自デッサンをする 것을薦めます。			復習：	
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（30%）、作品（20%）、実技（30%）、授業態度（20%）				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				
注意事項					

科目名	マンガ創作	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
授業の内容	物語をつくるための創作技法の理解。 実際にコマを割ってマンガ作品を創作します。 そのためのコマ割りの技術を学んでいきます。				
到達目標	マンガの描き方の流れを学び、ペンを使いコマを割って創作作品をひとつ仕上げること。 自由イラストを制作すること。 生徒全員で同人誌を制作すること。				
授業計画	第1回	【マンガ制作の流れ】 制作プロセスを理解します。			
	第2回	【コマ割りの理解①】 コマを割って課題とともに学びます。			
	第3回	【コマ割りの理解②】 コマに分割していく流れを学びます。			
	第4回	【コマ割りの理解③】 コマを読み進める流れを学びます。			
	第5回	【プロット作り】 オリジナルのあらすじを考えましょう。			
	第6回	【ストーリー作り①】 それを物語にしていきます。			
	第7回	【ストーリー作り②】 ネームという作業を学びます。			
	第8回	【課題を元にコマを割る】 コマを実際に割って見ます。			
	第9回	【課題を元にコマを割る】 アドバイスとともに完成させます。			
	第10回	【ペン入れ①】 ペンの基礎を学びます。			
	第11回	【ペン入れ②】 ペンのカケアミなどを学びます。			
	第12回	【ペン入れ③】 ペンの定規線を学びます。			
	第13回	【原稿用紙を使って描く】 実際に原稿用紙にマンガの下描きをしてみます。			
	第14回	【原稿用紙を使って描く】 実際に原稿用紙にペン入れをしてみます。			
	第15回	【作品講評】 アドバイス。			
授業に対する予習・復習	予習： 日常のなかで気になること、面白いことがあったらメモをとるようにしていきます。それが自分の作品を生み出す時に役に立ちます。	復習： 自宅で反復練習出来る課題は積極的に進めましょう。たくさん描く事でより上達していきます。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（30%）、作品（20%）、実技（30%）、授業態度（20%）				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				
注意事項					

科目名	アニメーション表現 I	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
授業の内容	アニメーションの基本的な理解。 製作工程、決まりごとを学びます。 動きの基本を単純で簡単なところから学んでいきます。				
到達目標	アニメーション制作の工程を理解できるようになること。 アニメーションの基本的な動きを実際に描いてみて知識と描写力をつけること。				
授業計画	第1回	アニメーションの基本を知ろう。			
	第2回	アニメーションはこうして創られる。			
	第3回	絵コンテって何？			
	第4回	動かしてみよう「ボール」編。			
	第5回	動かしてみよう「いろんな動き」			
	第6回	動かしてみよう「重力と慣性」			
	第7回	立ち上がって、座ってを描こう。			
	第8回	歩かせてみよう。			
	第9回	走らせてみよう。			
	第10回	ジャンプして着地する。			
	第11回	ひとつのシーンにまとめてみよう。			
	第12回	デフォルメを理解する。			
	第13回	デフォルメによる動きの演出を理解しよう。			
	第14回	動きを楽しくさせるデフォルメの効果。			
	第15回	まとめ。			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 授業ではひとつのパターンで課題を進めていくので、素材を変えて描く事でより理解が深まります。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（30%）、作品（20%）、実技（30%）、授業態度（20%）				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				
注意事項					

科目名	アニメーション表現Ⅱ	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
授業の内容	単純な動きの理解から更に進んで動物などの具体的な例でアニメーションさせていくことを学びます。動きの基本には慣性や重力というものが大きく関わっていることを理解していきます。				
到達目標	単純な動きの理解から、人間の歩きをアニメーションさせること。 多関節の動きを理解して動物のアニメーションを描けるようになること。 水、炎などの動きを理解し、アニメーションさせるようになること。				
授業計画	第1回	アニメーションの基本構成を知ろう。			
	第2回	動物の構造を理解する。			
	第3回	動物の動き「鳥」編。横。			
	第4回	動物の動き「鳥」編。前。			
	第5回	動物の動き「鳥」編。斜め。			
	第6回	動物の動き「哺乳類」編。横。			
	第7回	3次元という奥行きを構造を理解する。			
	第8回	立体的な背景の理解。			
	第9回	人物の動き。簡単なアクションをさせてみよう。歩く－正面。			
	第10回	人物の動き。簡単なアクションをさせてみよう。歩く－横。			
	第11回	人物の動き。簡単なアクションをさせてみよう。歩く－つまづく。			
	第12回	動物の動き「哺乳類」編。歩く。			
	第13回	動物の動き「哺乳類」編。走る。			
	第14回	動物の動き「哺乳類」編。方向転換。			
	第15回	まとめ。			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： アニメーションは基本はシンプルなのでそのバリエーションが大切。自分なりに素材を置き換えて描いてみるといいでしょう。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（30%）、作品（20%）、実技（30%）、授業態度（20%）				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				
注意事項					

科目名	アニメーション創作	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
授業の内容	実際にキャラクターや背景を描いてアニメーションを創作することになりますが、その手法に関していろいろな形があることを楽しく学んで進められればと考えています。				
到達目標	基本的なアニメーションの流れを実際に作って理解すること。 共通のテーマを前提にそれぞれが発想し短編アニメーション一本を創りあげること。				
授業計画	第1回	アニメーション創作の流れ。			
	第2回	テーマを決めよう。			
	第3回	内容を決めよう。			
	第4回	キャラを設定しよう。			
	第5回	絵コンテを切ろう。			
	第6回	絵コンテを切ろう。			
	第7回	原画を描こう。			
	第8回	原画を描こう。			
	第9回	背景作画しよう。			
	第10回	背景作画しよう。			
	第11回	人物を描こう。			
	第12回	人物を描こう。			
	第13回	人物を描こう。			
	第14回	仕上げてみよう。			
	第15回	まとめ。			
授業に対する予習・復習	予習： アニメーション表現Ⅰ、Ⅱで習ったことを素材を置き換えて練習する。	復習：			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（30%）、作品（20%）、実技（30%）、授業態度（20%）				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				
注意事項					

科目名	写真撮影技術演習	単位数	2	担当教員	工藤 研一
授業の内容	<p>様々分野において、写真(画像)は欠かせない表現方法として、いたる所で使用されています。</p> <p>ここでは短期間で写真撮影に関する基礎的な知識を身に付け、初歩的な撮影方法をしっかり学び、写真で自己表現ができるように身に付けることを目指します。</p>				
到達目標	<p>1. 写真撮影に関する基礎知識とマナーの習得。</p> <p>2. 写真表現の習得。</p> <p>3. フォトアルバム制作による自己表現の習得。</p>				
授業計画	第1回	オリエンテーション（履修者の所有しているカメラの把握および授業内容とスケジュールの説明）			
	第2回	講習1（写真の概要と撮影マナー、カメラとレンズの基礎知識）			
	第3回	実習1（カメラの使い方と身近な被写体の撮影実習）			
	第4回	実習2（課題：学外の屋外撮影実習／撮影予定地：文京区 根津神社・つつじ祭り）			
	第5回	講習2（撮影実習結果と添削）			
	第6回	講習3（構図とフレーミング、感度と露出）			
	第7回	実習3（課題：学外の屋外撮影実習／撮影予定地：北区 旧古河庭園・春のバラフェスティバル）			
	第8回	講習4（撮影実習結果と添削）			
	第9回	実習4（課題：小物アクセサリーの撮影実習）			
	第10回	実習5（課題：学外の屋外撮影実習／撮影予定地：川越市界隈 喜多院・川越の街並み）			
	第11回	講習5（撮影実習結果と添削）			
	第12回	実習6（課題：学外の屋外撮影実習／撮影予定地：航空公園など）			
	第13回	実習7（課題：フォトアルバム制作）			
	第14回	実習8（課題：フォトアルバム制作）			
	第15回	講習6（実習のまとめ、フォトアルバムの作品発表および作品提出）			
授業に対する予習・復習	予習： 撮影実習の前には、カメラの操作を確認しておくこと。		復習： 毎回実習で撮影された写真は、最終課題のフォトアルバム用に選んでおくこと。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>課題・作品（45%）、実技（15%）、授業態度（40%）</p>				
教科書					
参考文献					
注意事項	<p>履修期間中は最終課題のフォトアルバムの写真が足らなくなる様に普段でも撮影を心がけること。また履修者の知識レベルや撮影したい被写体、季節など考慮し、授業計画内容が一部変更になることもある。学外実習は主に時間の取れる土曜日に行う（3回前後実施予定）。撮影地は時期により変更になることがある。実習が多いので出席率を重視する。</p>				

科目名	ルポルタージュ入門	単位数	2	担当教員	外山 真也
授業の内容	「ルポルタージュ」とは、調査・取材に基づくノンフィクション記事を指す。プロの記事に触れ、ルポルタージュとは何かを理解した上で、課題として2000字以上の記事を書いてもらう。その作業を通じて、自分が普段何に関心があり、どんな問題意識を持って生きているかを文章にする力やコミュニケーション能力を培ってほしい。報道記者やルポライターを目指す学生だけでなく、いかなる職業に就いても役立つはずである。				
到達目標	自分にふさわしいテーマを見つけ、調査・取材を基に文章を書く経験を通じて、他者から有意義な言葉を引き出し、それをまとめて、大勢の人に分かりやすく伝える文章力を身につける。				
授業計画	第1回	概要			
	第2回	ルポルタージュとは何か？			
	第3回	すぐれたルポルタージュに触れる（1）：映像作品の鑑賞（前編）			
	第4回	すぐれたルポルタージュに触れる（2）：映像作品の鑑賞（後編）+レポート作成			
	第5回	すぐれたルポルタージュに触れる（3）：新聞記事を読む			
	第6回	すぐれたルポルタージュに触れる（4）：雑誌記事を読む			
	第7回	企画の立て方			
	第8回	取材編（1）：インタビューの練習①			
	第9回	取材編（2）：インタビューの練習②（原稿おこし）			
	第10回	取材編（3）：アポイントメントのとり方			
	第11回	企画書の作成&個別指導①			
	第12回	企画書の完成&個別指導②			
	第13回	執筆編（1）：ルポルタージュ向きの文章とは？			
	第14回	執筆編（2）：文章が見違えるコツ&課題（ルポルタージュ記事）の提出			
	第15回	課題の返却&講評			
授業に対する予習・復習	予習： 宿題を課した際には、ちゃんとやってくる。 普段から新聞や本を読む習慣を身につける。	復習：			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（95%）、授業態度（5%）				
教科書	資料を提供する。				
参考文献					
注意事項	成績は、課題の出来で評価。最終的に2000字（以上）のルポルタージュ記事を提出しなければ、いかなる理由があろうとも単位はあげられない。出してもらわないと、評価のしようがないので。				

科目名	編集と出版	単位数	2	担当教員	外山 真也
授業の内容	出版メディアの基礎知識を歴史的背景を踏まえて学び、その上で、具体的な雑誌の特集記事作りを体験してもらおう。出版業界はいま、大きな転換期を迎えており、いずれは紙の出版物はなくなるかもしれない。それでも、読書そのものの本質が変わるわけではない。出版物の意図や仕組みを知ることが、広義では社会を動かすメディアの仕組みを学ぶことにつながり、狭義では企画力や文章力を身につける手助けとなるはずである。				
到達目標	出版メディアの仕組みや工程を知ることができる。 グループでの作業を通じて、“協働”とは何かを体感できる。				
授業計画	第1回	概要			
	第2回	出版メディアの歴史と概要			
	第3回	編集とは何か：出版編集の概要と仕事の流れ			
	第4回	雑誌の種類とその分析：各自が愛読誌を持ち寄って比較検証			
	第5回	企画書の作成：雑誌の特集記事（2ページ程度）の企画を考える			
	第6回	編集会議：グループごとに分かれて特集内容を検討し決定する			
	第7回	企画書の完成&レイアウトのラフ案作り			
	第8回	材料渡しの準備（1）：素材（写真、イラスト、グラフなど）集め			
	第9回	材料渡しの準備（2）：原稿執筆			
	第10回	入稿：デザイナーへの材料渡し			
	第11回	校正作業（1）：校正（赤字入れ）の練習			
	第12回	校正作業（2）：初校戻し			
	第13回	出版メディアの現在と展望			
	第14回	校正作業（3）：再校戻し			
	第15回	発表会&講評			
授業に対する予習・復習	予習：宿題を課した際には、ちゃんとやってくる。グループでの作業が多いので、授業時間外でも積極的に参加する。		復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（40%）、発表（10%）、授業態度（50%）				
教科書	資料を提供する。				
参考文献					
注意事項	4～5名程度の班（グループ）に分かれて雑誌の特集記事を作る授業なので、必ず出席して、積極的なディスカッションをしてもらうことが原則。課題（宿題）も頻繁に出す予定。成績は、それプラス筆記試験によって評価する。				

科目名	校正・校閲演習Ⅰ	単位数	2	担当教員	外山 真也
授業の内容	校正・校閲とは、文章の中の誤りや不備を見つけ、赤字を入れて訂正する作業のこと。出版社や新聞社などマスコミ関係の職場はもとより、一般企業でも広報など文章を扱う部署においては欠かせない業務となっている。本講義では、具体的に練習問題に当たることで、校正・校閲の基本的な技能を身につけてもらう。きっと就職の際にも有利に働くはずである。				
到達目標	社会に出てから役に立つ、日本語の校正・校閲技能の基礎を身につける。				
授業計画	第1回	校正・校閲とは（概要）			
	第2回	本ができるまで：出版社での書籍づくりのプロセスを踏まえながら、校正の仕事の流れをつかむ			
	第3回	校正の基本1（校正記号を覚える）			
	第4回	校正の基本2（原稿引き合わせ、素読み）			
	第5回	自分で書いた原稿を校正してみる1（執筆・校正）			
	第6回	自分で書いた原稿を校正してみる2（返却・講評）			
	第7回	実技演習：初級編1（入稿原稿への赤字入れ）			
	第8回	実技演習：初級編2（校正刷りへの赤字入れ）			
	第9回	校正作業の注意点1（誤植になりやすい例：字形の似た文字、書き誤りやすい仮名遣い・熟語ほか）			
	第10回	校正作業の注意点2（誤植になりやすい例：固有名詞、紛らわしい文字・記号、脱字・誤入と転倒・逆植ほか）			
	第11回	校正作業の注意点3（用字・用語に注意：表記の方針、現代表記、常用漢字、字体、仮名遣いや送り仮名）			
	第12回	校正作業の注意点4（用字・用語に注意：外来語や数字の表記ほか）			
	第13回	組方を点検する			
	第14回	横組の校正			
	第15回	実技演習：中級編			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 授業中にしっかりとノートをとり、自宅でおさらいしてから次の授業に臨むことが肝要。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（70%）、授業態度（30%）				
教科書	『校正記号の使い方・第2版』（日本エディタースクール編集、日本エディタースクール出版部発行）				
参考文献	『実例 校正教室』（日本エディタースクール編集、日本エディタースクール出版部発行）				
注意事項	成績は、授業中に行う演習（練習問題を解く作業）と期末時の筆記試験によって評価する。				

科目名	校正・校閲演習Ⅱ	単位数	2	担当教員	外山 真也
授業の内容	校正・校閲演習の上級編である。「校正・校閲演習Ⅰ」を受講して基礎を学んだ学生を対象に、さらに本格的で難易度の高い練習問題に取り組み、より高度な技能の習得を目指す。マスコミや出版の仕事に興味のある学生が就職活動や就職後に役立つスキルを身につけられるような、実践的な授業を心掛けたい。				
到達目標	新聞社・出版社などの校正・校閲者として即戦力に成り得る技能を取得する。				
授業計画	第1回	概要&習熟度チェック			
	第2回	「校正・校閲演習Ⅰ」のおさらい&前期末試験の解説			
	第3回	コンピュータの浸透に伴う校正作業の変化と注意点			
	第4回	より高度な校正1（漢字の字種・字体の変遷）			
	第5回	より高度な校正2（組版ルールを知る）			
	第6回	より高度な校正3（その他：見出し、固有名詞、数字・単位記号などの注意点、新聞・出版社ごとの統一表記）			
	第7回	プロの校正者を招いて			
	第8回	実技演習：上級編（縦組問題）			
	第9回	実技演習：上級編（縦組問題の解答）			
	第10回	実技演習：おさらい+中間評価			
	第11回	実技演習：中間評価の解説			
	第12回	実技演習：上級編（横組問題）			
	第13回	実技演習：上級編（横組問題の解答）			
	第14回	実技演習：おさらい+総合評価			
	第15回	実技演習：総合評価の解説&講評			
授業に対する予習・復習	予習： 普段から本や新聞、インターネットなどで文章を読む際に、正しい日本語や漢字の使い方に留意して読むことを心掛ける。	復習：	授業中にしっかりとノートをとり、自宅でおさらいしてから次の授業に臨むことが肝要。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（80%）、授業態度（20%）				
教科書	『校正記号の使い方・第2版』（日本エディタースクール編集、日本エディタースクール出版部発行）				
参考文献	『新しい校正者の基礎知識』（野村保恵著、日本エディタースクール出版部発行）				
注意事項	成績は、2度にわたる授業内評価（中間評価、総合評価）によっておこなう。				

科目名	情報処理概論	単位数	2	担当教員	吉井 利眞
授業の内容	この授業では、実社会で必要とされる様々な情報活用（能）力の具体的な内容を概説しながら、情報処理の基本的な意義と役割、そしてその手法について学びます。パソコンが単に操作できるというだけでは、本当の意味での IT スキルあるいは情報活用（能）力を身につけたとはいえません。情報の的確な収集と分析、そして伝達ということの中には、留意しなければならない種々のポイントがあります。その中には、セキュリティの問題や各種の権利にかかわる問題なども含まれます。				
到達目標	基礎的な情報活用能力を知識、技能、分析、解決の4面から習得することとします。これらは授業時ごとの確認テストでチェックされます。				
授業計画	第1回	情報処理のツールとしてのコンピュータ（1）（ハードウェアとしての仕組み）			
	第2回	情報処理のツールとしてのコンピュータ（2）（基本ソフト OS の役割と操作環境）			
	第3回	情報検索			
	第4回	情報運用			
	第5回	数値分析（1）（表計算処理）			
	第6回	数値分析（2）（グラフ作成）			
	第7回	データベース			
	第8回	ファイル・データ管理			
	第9回	インターネットコミュニケーション（1）（メールコミュニケーション）			
	第10回	インターネットコミュニケーション（2）（SNS）			
	第11回	文章表現			
	第12回	ビジュアル表現			
	第13回	プレゼンテーション1			
	第14回	プレゼンテーション2			
	第15回	双方向の情報コミュニケーション			
授業に対する予習・復習	予習： 実施単元の内容についてテキストで確認しておきましょう。	予習： チェックテストの誤答について正答の内容を確認し、理解しましょう。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（80%）、発表（20%）				
教科書	『情報活用力』（本田直也監修、noa 出版）				
参考文献					
注意事項	広範な内容について学習するので不明な点については質問等で解決していきましょう。				

科目名	W e b デ ザ イ ン I	単位数	2	担当教員	吉野 明美
授業の内容	Webデザインに関する基礎知識と技術を学習します。 Webページの構造（HTML）とスタイル・デザインの定義（CSS）を、サイトを作成しながら習得します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● HTMLを理解して、Webページを作成できる。 ● CSSを理解して、Webページにデザインを施すことができる。 ● HTMLとCSSを駆使して、思い描くレイアウト構成を作成できる。 				
授業計画	第1回	Mac、Dreamweaverの基本操作			
	第2回	Webページの制作の流れ			
	第3回	HTML（基本タグ・改行・見出し・段落）			
	第4回	HTML（画像）			
	第5回	HTML（表・リスト）			
	第6回	HTML（リンク・ページの連携）			
	第7回	CSS（セレクタ・HTMLとのリンク・テキスト編集）			
	第8回	CSS（色の指定・背景）			
	第9回	CSS（サイズ・枠線・余白）			
	第10回	CSS（HTMLのグループ化・配置）			
	第11回	CSS（表の詳細設定・リストの活用）			
	第12回	ページレイアウト			
	第13回	インラインフレーム			
	第14回	フォームの作成			
	第15回	これまでのまとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： ステップごとの演習問題の完成		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 課題（20%）、実技（60%）、授業態度（20%）				
教科書	『HTML5 & CSS3 ワークブック ステップ 30（情報演習 14）』（相澤裕介、カットシステム）				
参考文献	『作りながら学ぶ HTML/CSS デザインの教科書』（高橋 朋代、SBクリエイティブ）				
注意事項	「ウェブデザイン実務士」を取得予定学生は、必ず履修してください。				

科目名	W e b デ ザ イ ン II	単位数	2	担当教員	吉野 明美
授業の内容	<p>Web サイト制作の代表ツールである Dreamweaver の操作を学習すると共に、CSS デザインの応用分野を学習していきます。</p> <p>作品の制作はもちろん、リニューアル（更新や修正）により、クオリティの高いサイト制作が行える技術を学びます。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● Dreamweaver を使い、サイト作成・編集ができる。 ● サイトデザインをビジュアル確認しながら、コード編集ができる。 ● サイト構成が理解できる。 				
授業計画	第1回	サイト作成準備（サイトの定義）			
	第2回	Web ページの作成			
	第3回	タグの編集			
	第4回	表・画像の追加			
	第5回	リンクの設定			
	第6回	情報のグループ化			
	第7回	CSS でレイアウト			
	第8回	ボックスと使ったレイアウト			
	第9回	ロールオーバー			
	第10回	ファイルの複製			
	第11回	フォームの作成			
	第12回	ファイル管理			
	第13回	作品制作① ページ作成：レイアウトとコンテンツ			
	第14回	作品制作② ページ作成：デザイン			
	第15回	作品制作③ 動作・表示確認と修正			
授業に対する予習・復習	予習：			復習： 指定課題の作成	
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>課題（20%）、作品（60%）、授業態度（20%）</p>				
教科書	『これからはじめる Dreamweaver の本 CS6/CS.5.5 対応版』（山本和泉、技術評論社）				
参考文献					
注意事項	<p>原則として「Web デザイン I」の履修を終えていることが必要です。</p> <p>演習科目であるため、出席及び課題の提出を重視します。</p> <p>「ウェブデザイン実務士」を取得予定学生は、必ず履修してください。</p>				

科目名	W e b デ ザ イ ン 演 習	単位数	2	担当教員	吉野 明美
授業の内容	Web 関連科目の総括として、各自テーマを決めて、サイト制作を行います。 ターゲット、コンセプト、目的を明確にして、自らの思い描く Web サイトを完成させます。制作の一連の流れ（企画、設計、制作、運営）を通して、表現力と技術力を高めていきます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報の収集、分析を行うことができる。 ● 適切な表現で情報を発信できる。 ● 利用する人の視点からデザインを考案できる。 ● 作品を公開、運用できる。 				
授業計画	第1回	Web サイト制作とプランニング			
	第2回	企画の立案と情報収集			
	第3回	企画書の作成・ラフスケッチ			
	第4回	ラフスケッチを Photoshop で清書			
	第5回	ページデザイン修正			
	第6回	Web 用画像素材への変換			
	第7回	ディレクトリの配置			
	第8回	コーディング（HTML）トップページの内容をマークアップ			
	第9回	コーディング（CSS）トップページのレイアウトを整える			
	第10回	トップページのデザイン修正			
	第11回	コーディング（HTML）下層ページの内容をマークアップ			
	第12回	コーディング（CSS）下層ページのレイアウトを整える			
	第13回	リンク設定とレイアウトの見直し			
	第14回	文章の校正とデザイン修正			
	第15回	動作・表示確認			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 作品制作		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（10%）、作品（70%）、授業態度（20%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	<p>「Web デザインⅡ」または「Web サイト管理演習」の履修を終えていることが必要です。</p> <p>「ウェブデザイン実務士」を取得予定学生は、必ず履修してください。</p> <p>作品制作には、授業時間外にも積極的に取り組んでください。</p>				

科目名	Web サイト管理演習	単位数	2	担当教員	吉野 明美
授業の内容	<p>Webサイトの管理や運営を学習します。</p> <p>Webサイトの使い勝手のよさのことをWebユーザビリティといいます。利用者(ユーザ)がどれだけ快適に操作できるかという視点に立ち、色彩の基本や見やすさといったデザイン性や操作性、セキュリティなどを捉えながら、情報発信管理の重要性を演習の中で身につけていきます。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● Webサイトの運営や管理の知識を身につける。 ● Webサイトの効果的デザイン・レイアウトを理解できる。 ● ユーザビリティの視点から、Webサイトのデザインを提案できる。 				
授業計画	第1回	Webサイトの基礎知識			
	第2回	デザインの基礎(画像・色彩・フォント)			
	第3回	プランニング(サイト設計の方向性)			
	第4回	プランニング(サイトマップ)			
	第5回	プランニング(ナビゲーション・ページサイズ)			
	第6回	制作ツール(Dreamweaver)			
	第7回	制作ツール(Photoshop)			
	第8回	CSSでレイアウト(インラインレベルとブロックレベル)			
	第9回	CSSでレイアウト(ボックス・ボーダー・フロート)			
	第10回	CSSでレイアウト(背景画像・リンク)			
	第11回	文章デザイン			
	第12回	写真の加工			
	第13回	jQueryと動的サイト			
	第14回	SEO対策			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習:		復習: 課題の完成、作品制作		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験: 実施()する/ (○)しない</p> <p>課題(20%)、作品(60%)、授業態度(20%)</p>				
教科書					
参考文献					
注意事項	<p>「WebデザインI」を履修済みで、HTMLを理解していることが必要です。</p> <p>演習科目であるため、出席及び課題の提出を重視します。</p>				

科目名	W e b プ ロ グ ラ ミ ン グ	単位数	2	担当教員	中島 俊治
授 業 の 内 容	本講義では「JavaScript」を中心に「PHP」なども含めた Web プログラミングの基礎を学びます。JavaScript は、新しく Web 標準となった「HTML5」の重要な技術のひとつです。計算はもちろん、ブラウザ上のコンテンツを動的に書き換えたり、Web ページのデザインもコントロールすることができます。この授業ではサーバ言語の「PHP」も活用しつつ、Web ページ上に「Web アプリケーション」を制作します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「JavaScript」の技術仕様を理解することができる ・「クリエイティブな楽しさ」を体感することができる ・「Web アプリケーション」を独力で制作できるスキルの基礎が身につく 				
授 業 計 画	第 1 回	HTML5 を使った Web アプリケーションに触れてみよう (Web アプリケーションの概要ガイダンス)			
	第 2 回	アプリケーションの制作構造の理解 (HTML5 タグ)			
	第 3 回	アプリケーションのデザインの理解 (CSS3)			
	第 4 回	JavaScript に触れてみよう			
	第 5 回	情報の出力 (DOM)、プログラムの計算			
	第 6 回	情報の入力 (input フォーム部品)			
	第 7 回	時計アプリケーションの制作 (Date オブジェクト)			
	第 8 回	計算機アプリケーションの制作 (Math オブジェクト)			
	第 9 回	占いゲームの制作 (条件構文、乱数の理解)			
	第 10 回	じゃんけんゲームの制作 (応用)			
	第 11 回	音声データのコントロール (Audio オブジェクト)			
	第 12 回	映像データのコントロール (Video オブジェクト)			
	第 13 回	JavaScript ライブラリの理解 (jQuery)			
	第 14 回	サーバサイド言語「PHP」の理解			
	第 15 回	Web プログラミングまとめ			
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの事前配布があった場合には必ず目を通しておいてください。 ・毎回、Dreamweaver を使用するので、その取扱に慣れておいてください。 	復習： <ul style="list-style-type: none"> ・積み上げ式の授業ですので、毎回の授業内容の理解を深めてください。 ・不明な点、疑問な点は、Web 検索など活用して解決してください。 			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施 (○) する / () しない 筆記試験 (50%)、授業態度 (50%)				
教科書	特に無し				
参考文献	特に無し				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・PC への英数入力に支障がないことを前提とします。 ・「どのようなアプリがあったら楽しいだろう？」という思いを巡らせながら授業に望んでください。 ・後期「Web アニメーション演習」も履修することが望ましい。 				

科目名	Webアニメーション演習	単位数	2	担当教員	中島 俊治																														
授業の内容	<p>本講義ではHTML5を使ったWebアニメーション演習を行います。</p> <p>WebアプリケーションのためのHTML5は、アニメーションに最適な「モーショングラフィカル」な技術も多く備わっています。その仕様の中から本講義では「SVG」「CSS3アニメーション」「Canvas API」を取り上げ、その動作原理の理解と作品の制作を通して、Webアニメーションの表現方法を探求します。</p>																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「SVG」による図形描画とアニメーションの理解が得られ、制作できるようになる ・「CSS3アニメーション」の理解が得られ、制作できるようになる ・「Canvas API」による図形描画とプログラミングの制御するアニメーションの理解が得られ、できるようになる ・「クリエイティブなプログラミング」スキルが取得できる 																																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>Webアニメーションに触れてみよう（概要ガイダンス）</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>SVG APIによる図形描画</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>SVG APIによるアニメーションの方法</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>SVG APIによるアニメーション制作演習</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>CSS3の基礎</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>CSS3アニメーションの方法</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>CSS3アニメーション制作演習</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>CSS3による三次元アニメーションの方法</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>CSS3の三次元アニメーション制作演習</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>Canvas APIの基礎</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>Canvas APIによるアニメーションの方法</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>Canvas APIでのアニメーション制作演習</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>Canvas APIでの図形描画</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>総合制作演習①（アニメーションの企画）</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>総合制作演習②（アニメーションの制作）</td> </tr> </table>					第1回	Webアニメーションに触れてみよう（概要ガイダンス）	第2回	SVG APIによる図形描画	第3回	SVG APIによるアニメーションの方法	第4回	SVG APIによるアニメーション制作演習	第5回	CSS3の基礎	第6回	CSS3アニメーションの方法	第7回	CSS3アニメーション制作演習	第8回	CSS3による三次元アニメーションの方法	第9回	CSS3の三次元アニメーション制作演習	第10回	Canvas APIの基礎	第11回	Canvas APIによるアニメーションの方法	第12回	Canvas APIでのアニメーション制作演習	第13回	Canvas APIでの図形描画	第14回	総合制作演習①（アニメーションの企画）	第15回	総合制作演習②（アニメーションの制作）
第1回	Webアニメーションに触れてみよう（概要ガイダンス）																																		
第2回	SVG APIによる図形描画																																		
第3回	SVG APIによるアニメーションの方法																																		
第4回	SVG APIによるアニメーション制作演習																																		
第5回	CSS3の基礎																																		
第6回	CSS3アニメーションの方法																																		
第7回	CSS3アニメーション制作演習																																		
第8回	CSS3による三次元アニメーションの方法																																		
第9回	CSS3の三次元アニメーション制作演習																																		
第10回	Canvas APIの基礎																																		
第11回	Canvas APIによるアニメーションの方法																																		
第12回	Canvas APIでのアニメーション制作演習																																		
第13回	Canvas APIでの図形描画																																		
第14回	総合制作演習①（アニメーションの企画）																																		
第15回	総合制作演習②（アニメーションの制作）																																		
授業に対する予習・復習	<p>予習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキスト配布があった場合には必ず目を通しておいてください。 ・毎回、Dreamweaverを使用するので、その取扱に慣れておいてください。 	<p>復習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積み上げ式の授業ですので、毎回の授業内容の理解を深めてください。 ・不明な点、疑問な点は、Web検索など活用して解決してください。 																																	
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（50%）、授業態度（50%）</p>																																		
教科書	特に無し																																		
参考文献	特に無し																																		
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・PCへの英数入力に支障がないことを前提とします。 ・「どのようなアニメーションを作ろうか？」という思いを巡らせながら授業に望んでください。 ・前期「Webプログラミング」も履修していることが望ましい。 																																		

科目名	画像処理演習 I	単位数	2	担当教員	吉井 利眞
授業の内容	デジタル画像処理に関する基礎概念とペイント系ソフトの活用力の習得をめざす。 デジタル画像の基本的特性を理解し、ソフトによる画像処理の目的・対応・処理結果の評価を重ねるとともに、作品の制作を通し、各自の表現力の向上も図ります。				
到達目標	基本ツールの習得とデジタル画像に関する基礎知識の習得とします。これらは課題の完成度や小テストで評価されます。				
授業計画	第1回	デジタル画像の特徴 画像フォーマット			
	第2回	画像モードの特性			
	第3回	アプリケーション操作① 色調とその補正			
	第4回	アプリケーション操作② 画像の修正			
	第5回	アプリケーション操作③ レイヤー構造の理解			
	第6回	アプリケーション操作④ チャンネルとマスク			
	第7回	アプリケーション操作⑤ 描画モード			
	第8回	アプリケーション操作⑥ 各種ツールの利用			
	第9回	アプリケーション操作⑦ フィルタ処理 a - レイヤー効果			
	第10回	アプリケーション操作⑧ フィルタ処理 b - ラスター画像への変換後の処理			
	第11回	小作品の制作指導 a			
	第12回	小作品の制作指導 b			
	第13回	小作品の制作指導 c			
	第14回	小作品の制作指導 d			
	第15回	プレゼンテーション			
授業に対する予習・復習	予習： テキストがないので、空き時間を使いツールの習得。		復習： デジタル画像についての知識を再確認しておきましょう。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（60%）、作品（40%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	タブレットが使える練習もおきましょう。				

科目名	画像処理演習Ⅱ	単位数	2	担当教員	吉井 利眞
授業の内容	ドロー系ソフトによって描かれるベクター画像の特徴を学びながら、実際にベジェ曲線を操作しいろいろな文字や図形の作成、下絵のトレースなどの作業を行っていきます。ドロー系のソフトの利用範囲は非常に広く、授業の中でもこのソフトの特徴を生かした作品作りに挑戦していきます。				
到達目標	目標はベジェ曲線描画の正確さやデジタル表現の多様性の理解とその実践力の習得とします。これは課題によって達成度が確認されます。				
授業計画	第1回	ラスター画像とベクター画像			
	第2回	ベジェ曲線の操作① 開いた線形図の作成			
	第3回	ベジェ曲線の操作② 閉じた線形図の作成			
	第4回	アプリケーション操作① バスの操作			
	第5回	アプリケーション操作② オブジェクトの扱い			
	第6回	アプリケーション操作③ 描画			
	第7回	アプリケーション操作④ 塗りと効果			
	第8回	アプリケーション操作⑤ 各種ツールの利用			
	第9回	アプリケーション操作⑥ 文字			
	第10回	アプリケーション操作⑦ グラフ			
	第11回	小作品の制作指導 a			
	第12回	小作品の制作指導 b			
	第13回	小作品の制作指導 c			
	第14回	小作品の制作指導 d			
	第15回	プレゼンテーション			
授業に対する予習・復習	予習： アプリケーションのツールの役割についてあらかじめ自分でふれて確認しておきましょう。		復習： 各回の課題を確実に消化できるようにしておきましょう。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（50%）、作品（50%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	表現力もあわせて向上できるようにしましょう。				

科目名	C G 演習		単位数	2	担当教員	吉井 利眞
授業の内容	<p>3D・CGソフト（Shade）を利用し、3次元的な構想力と簡単な製図手法の習得をめざす。</p> <p>3次元空間をパソコンの画面上でどのように把握し、表現することができるのかという基本的な感覚の掌握を前提に、身近なもののデザインを行う。</p>					
到達目標	<p>到達目標は空間座標による立体構造の把握と表現力の習得、創造力の鍛錬、CG制作にかかわる基本ツールや表現手法の習得におきます。これらは課題への取り組みによって達成度が評価されます。</p>					
授業計画	第1回	3次元空間の理解と表現				
	第2回	製図の基本 作業用座標平面と見取り図				
	第3回	基本製図作業（1）各種ツールの理解				
	第4回	基本製図作業（2）各種形状の作成と編集				
	第5回	基本製図作業（3）掃引体と回転体				
	第6回	課題への取り組み（1）テーブルと椅子の制作				
	第7回	課題への取り組み（2）ガラスと液体の製作				
	第8回	課題への取り組み（3）材質の決定・プーリアンレンダリング練習				
	第9回	プレゼンテーションと相互評価				
	第10回	課題への取り組み（1）製品のデザイン				
	第11回	課題への取り組み（2）図面への描きだし①丸めと回転				
	第12回	課題への取り組み（3）図面への描きだし②プーリアン				
	第13回	課題への取り組み（4）細部の完成指導①テクスチャーの貼り付け				
	第14回	課題への取り組み（5）細部の完成指導②				
	第15回	プレゼンテーションと相互評価				
授業に対する予習・復習	予習： アプリケーションのツールについて事前に触れて慣れておきましょう。		復習： 空間把握は難しいところもあります。もう一度課題をやり直してみましょう。			
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>課題（50%）、作品（50%）</p>					
教科書						
参考文献						
注意事項	創作コンテストへの参加も励みに頑張りましょう。					

科目名	C G 創 作	単位数	2	担当教員	吉井 利眞
授 業 の 内 容	CG 演習で習得した3DCG ソフトの基本操作を前提に、多様な形状をもつ複雑な立体像の制作に取り組みます。各自がテーマを決め、作品を作り上げていきます。 最初にサンプルを全員で作成し、要領を覚えた段階で作品の制作に入っていきます。				
到達目標	到達目標は多様な3DCG 表現力の習得と実践とします。これらは作成課題の完成度によって達成度が確認できます。				
授 業 計 画	第1回	サンプル作製① ロボット形状の作成			
	第2回	サンプル作製② 有機物（野菜・果物等）の材質作成			
	第3回	テーマについて企画、プレゼンテーション			
	第4回	作品作り			
	第5回	作品作り			
	第6回	作品作り			
	第7回	作品作り			
	第8回	中間発表			
	第9回	作品作り			
	第10回	作品作り			
	第11回	作品作り			
	第12回	作品作り			
	第13回	アニメーションやムービーへの描きだし① プレビューでの検証			
	第14回	アニメーションやムービーへの描きだし② ムービーの編集			
	第15回	プレゼンテーション、相互評価			
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 特に必要ありません。		復習： 授業時間内でうまくいかなかった点をやり直しておきましょう。		
成 績 評 価 の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（20%）、作品（80%）				
教 科 書					
参 考 文 献					
注 意 事 項	作品の完成度を高めることにも注力しましょう。				

科目名	デジタルビデオ編集 I	単位数	2	担当教員	高橋 一夫
授業の内容	デジタル時代、映像の社会的ニーズは今後ますます大きくなっていくだろう。動画や写真、音楽を自由にあやつる技術を身につけておけば、社会を生き抜くための強い味方になりうる。遊びながら映像表現の基本を学び作品を作る実習講座は、今後様々なステージで求められる『企画する力』と『表現するスキル』を育てる。				
到達目標	以下の基本を習得する。 1) 企画書・脚本作り 2) 撮影／カメラ、三脚操作 3) 編集／パソコン、アプリ操作				
授業計画	第1回	ビデオ作品制作の全体（企画から M.A.、公開まで）／ビデオ編集の役割			
	第2回	ビデオ制作ツールにふれる（1）デジタルビデオカメラ・撮影の基本			
	第3回	ビデオ制作ツールにふれる（2）編集アプリケーション/iMovie, Final Cut Pro			
	第4回	企画を作る（1）どんなビデオ作品を作るか？完成形をイメージする			
	第5回	企画を作る（2）企画構成案～シナリオ/脚本の書き方 わかりやすいということ			
	第6回	企画プレゼンテーション 人に伝える			
	第7回	撮影準備（撮影計画とテスト）			
	第8回	撮影→取り込み（撮影した素材をパソコンに取り込む）			
	第9回	編集の基本（1）操作 カット・ギャップを閉じる・エフェクトの基本			
	第10回	編集の基本（2）映像エフェクト ビデオトランジションとビデオフィルタ			
	第11回	編集の基本（3）文字と音のエフェクト ビデオジェネレータとオーディオエフェクト			
	第12回	編集作業（1）基本の復習			
	第13回	編集作業（2）テロップの長さを決める			
	第14回	編集作業（3）仕上げ・完成			
	第15回	まとめ・全体の復習			
授業に対する予習・復習	予習： 日頃から目にふれる映像や好きなコンテンツをただ眺めるのではなく、作り手の目で見ると慣をつけ、自分の作品づくりに活かす。	復習：	時間があればカメラ、パソコンに触れ、使い方を早く習得して、自分の意図通りの映像を撮影・編集できるようにする。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（10%）、レポート（15%）、課題（15%）、作品（20%）、発表（15%） 実技（10%）、授業態度（15%）				
教科書					
参考文献	『CG&映像しくみ事典』（永田豊志/CGWORLD、ワークスコーポレーション）、 『映画の瞬き—映像編集という仕事』（ウォルター・マーチ/吉田 俊太郎、フィルムアート社）				
注意事項					

科目名	デジタルビデオ編集Ⅱ	単位数	2	担当教員	高橋 一夫
授業の内容	<p>前期「デジタルビデオ編集Ⅰ」受講者を対象とする。</p> <p>前期で学んだ技術を発展させて、より高度な映像表現を学ぶ。</p> <p>ビデオカメラ、デジカメ、スマホなどから取り込んだ映像や音を組み合わせて、自分の意図した映像作品を創作する。自己満足でなく人が見て「理解できる」「おもしろい」映像を作る事を学ぶ。</p>				
到達目標	<p>1) 多様なメディア素材取込の理解</p> <p>2) 多様なエフェクト／トランジションの理解</p> <p>3) 的確な撮影・編集表現の習得</p>				
授業計画	第1回	前期の復習と後期授業計画の詳細確認			
	第2回	参考作品鑑賞と意見交換			
	第3回	後期作品・企画書・シナリオ作成			
	第4回	プレゼンテーション			
	第5回	撮影準備（撮影計画作成とテスト撮影）			
	第6回	撮影のスキルアップ			
	第7回	撮影実習			
	第8回	作品撮影			
	第9回	撮影と取り込み			
	第10回	編集のスキルアップ			
	第11回	編集作業（1）～ OK出し（不要な部分をカットする）、順序を入れ換える			
	第12回	編集作業（2）～ エフェクト、トランジションをかける			
	第13回	編集作業（3）～ 音を調整する（音楽・効果音を付ける）			
	第14回	編集作業（4）～ 仕上げ／ブラッシュアップ 完成			
	第15回	まとめ・全体の復習			
授業に対する予習・復習	予習：	日頃から作り手の目で映像に接する習慣をつけ、どんな技術が使われているか推測し、自分の作品づくりに活かす。	復習：	自分の意図通りの映像を撮影・編集できるようにビデオカメラ、パソコン、アプリなどの使用法に習熟する。	
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（10%）、レポート（15%）、課題（15%）、作品（20%）、発表（15%）</p> <p>実技（10%）、授業態度（15%）</p>				
教科書					
参考文献	<p>『CG&映像しくみ事典』（永田豊志/CGWORLD、ワークスコーポレーション）、</p> <p>『映画の瞬き—映像編集という仕事』（ウォルター・マーチ/吉田 俊太郎、フィルムアート社）</p>				
注意事項					

科目名	ビデオ創作	単位数	2	担当教員	高橋 一夫
授業の内容	<p>本講座は映像のクリエイティビティ（創作表現）に主眼を置く。 YouTube、ドラマ、CM…どんな映像も、伝えたいメッセージがあつてはじめて様々なテクニックは生かされる。 見る人に何を伝えたいか？ その為にはどんな映像と音が必要か？ 創作について考え、作品を制作する。</p>				
到達目標	<p>1) 頭の中にあるイメージを、具体的な形（映像）にできる 2) コミュニケーションツールとして映像と音を使うことができる 3) 多様な映像テクニックを習得する</p>				
授業計画	第1回	講座の目的・概要と授業計画の説明。Q&A			
	第2回	参考作品鑑賞。コンテンツの制作意図と、そのために使用されたテクニックを検証する			
	第3回	映像のテクニック 参考作品鑑賞と意見交換			
	第4回	音響のテクニック 参考作品鑑賞と意見交換			
	第5回	実習 高度な映像表現を学ぶ			
	第6回	実習 高度な音響表現を学ぶ			
	第7回	企画案・構成案・シナリオ作成1			
	第8回	企画案・構成案・シナリオ作成2			
	第9回	実習 高度な撮影技術を学ぶ			
	第10回	実習 高度な映像編集技術を学ぶ			
	第11回	実習 高度な音響編集技術を学ぶ			
	第12回	作品制作1 映像撮影			
	第13回	作品制作2 映像編集			
	第14回	作品制作3 音響編集			
	第15回	完成試写・全体復習			
授業に対する予習・復習	予習： 質問を用意する		復習： 質問への答えを自分で検証する		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（10%）、レポート（15%）、課題（15%）、作品（20%）、発表（15%） 実技（10%）、授業態度（15%）</p>				
教科書					
参考文献	<p>『CG&映像しくみ事典』（永田豊志/CGWORLD、ワークスコーポレーション）、 『映画の瞬き—映像編集という仕事』（ウォルター・マーチ/吉田 俊太郎、フィルムアート社）</p>				
注意事項					

科目名	D T P オペレーション I	単位数	2	担当教員	森山 隆次
授業の内容	今日様々な職場で必要とされるクリエイティブ能力を持った人材育成を、コンピュータによるコンテンツ制作を、一般企業からデザイン・出版印刷・文書作成・管理といった専門職に通じる、DTP（デスクトップパブリッシング）を理解企画力のある人材の育成を目指す。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフィックアプリケーションの操作知識を習得できる。 ・グラフィックデザインの知識を習得できる。 ・学期中に2点課題の作成および提出ができる。 				
授業計画	第1回	講習内容のオリエンテーション／講義（DTPの基礎知識）			
	第2回	コンピュータ実習1/A課題制作1	※A課題：プライダルカタログのデザイン/パンフレット8Pの制作		
	第3回	コンピュータ実習2/A課題制作2			
	第4回	コンピュータ実習3/A課題制作3			
	第5回	コンピュータ実習4/A課題制作4			
	第6回	コンピュータ実習5/A課題制作5			
	第7回	コンピュータ実習6/A課題制作6			
	第8回	コンピュータ実習7/A課題提出まとめ			
	第9回	コンピュータ実習8/B課題制作1	※B課題：雑誌の編集とデザイン（「編集と出版」の授業とのコラボレーション）		
	第10回	コンピュータ実習9/B課題制作2	/雑誌見開きページの制作		
	第11回	コンピュータ実習10/B課題制作3			
	第12回	コンピュータ実習11/B課題制作4			
	第13回	コンピュータ実習12/B課題制作5			
	第14回	コンピュータ実習13/B課題制作6			
	第15回	コンピュータ実習14/B課題提出まとめ/総評			
授業に対する予習・復習	予習： 課題作成に関する、素材・情報のまとめ		復習： アプリケーションソフトの操作確認		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（60%）、作品（25%）、授業態度（15%）				
教科書	『これからはじめる InDesign の本』（波多江 潤子、技術評論社）				
参考文献	インターネットにより参考資料各種				
注意事項					

科目名	D T P オペレーションⅡ	単位数	2	担当教員	森山 隆次
授業の内容	グラフィックデザインの職場で必要とされる、アプリケーションの操作技術の向上と、デザイン・出版印刷業界企業の専門職に通じる企画力のある人材の育成を目指す。 「DTPオペレーションⅠ」で学んだ技能の応用力を伸ばす。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> グラフィックアプリケーションの操作知識を習得できる。 グラフィックデザインの知識を習得できる。 学期中に2点課題の作成および提出ができる。 				
授業計画	第1回	講習内容のオリエンテーション／講義（DTPの最新技術と応用）			
	第2回	コンピュータ実習1/A課題制作1	※A課題：カレンダーのデザイン/オリジナルカレンダーの制作		
	第3回	コンピュータ実習2/A課題制作2			
	第4回	コンピュータ実習3/A課題制作3			
	第5回	コンピュータ実習4/A課題制作4			
	第6回	コンピュータ実習5/A課題制作5			
	第7回	コンピュータ実習6/A課題提出まとめ			
	第8回	コンピュータ実習7/B課題制作1	※B課題：ポスターのデザイン/オリジナル映画のポスター制作		
	第9回	コンピュータ実習8/B課題制作2			
	第10回	コンピュータ実習9/B課題制作3			
	第11回	コンピュータ実習10/B課題制作4			
	第12回	コンピュータ実習11/B課題制作5			
	第13回	コンピュータ実習12/B課題提出まとめ			
	第14回	ポートフォリオ作成（課題の総まとめ）			
	第15回	講義（実社会におけるDTP技能の活用）・総評			
授業に対する予習・復習	予習： 課題作成に関する、素材・情報のまとめ		復習： アプリケーションソフトの操作確認		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（60%）、作品（25%）、授業態度（15%）				
教科書	『これからはじめる Illustrator&Photoshop の本』（黒野 明子、技術評論社）				
参考文献	インターネットにより参考資料各種				
注意事項					

科目名	イベント・プランニング	単位数	2	担当教員	中西 希和
授業の内容	イベントは、「人と人」をつなぐコミュニケーション・メディアとしての役割を持ち、コミュニティ活動を活性化していくための効果的な手段として注目され、実施されています。この授業ではイベントについて理解し、イベントを企画することによって、アイデアを生み出し、それを説明して提案していく力を身につけることを目指します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「イベント」の全体像を理解する。 ・イベントを企画する ・アイデアをもとに企画書を作成し、発表する 				
授業計画	第1回	オリエンテーション			
	第2回	イベントとは			
	第3回	イベントの歴史			
	第4回	イベントの機能、効果 コミュニケーション・メディアとしてイベント			
	第5回	イベントの分類			
	第6回	博物館の展覧会① 展示のプロセス			
	第7回	博物館の展覧会② 展示の事例			
	第8回	イベントの企画			
	第9回	イベント企画の手法 アイデア発想			
	第10回	イベントの企画立案			
	第11回	イベント企画書の制作①			
	第12回	イベント企画書の制作②			
	第13回	プレゼンテーション① 準備			
	第14回	プレゼンテーション② 発表			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 授業で配布する資料をよく読み、復習するようにしてください。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施 (○) する / () しない 筆記試験 (30%)、レポート (20%)、発表 (30%)、授業態度 (20%)				
教科書	必要に応じ、プリントを配布します。				
参考文献	授業の中で随時、紹介します。				
注意事項					

科目名	イベント・マネジメント	単位数	2	担当教員	中西 希和
授業の内容	イベントは効果的なコミュニケーション・メディアとして注目され、実施されていますが、様々なリスクも持っています。この授業では、イベントの運営、関連業務等を理解し、集客効果を上げるチラシ、ポスターを制作する他、企画したイベントを成功させていくためには何が必要であるか、考えていきます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを成功させるための具体的な計画を立てることができる ・集客効果を上げるチラシ、ポスターを制作する 				
授業計画	第1回	オリエンテーション			
	第2回	イベント企画の見直し、イベントの計画			
	第3回	イベントプログラムの制作			
	第4回	イベントの告知・集客			
	第5回	広報・PR活動			
	第6回	チラシの作成			
	第7回	イベントの運営			
	第8回	会場の運営			
	第9回	イベント運営の業務			
	第10回	イベントにおけるリスクを考える			
	第11回	イベント関連の保険			
	第12回	イベントとコンプライアンス、関連法規			
	第13回	イベントにおけるサステナビリティ（持続可能性）とレガシー			
	第14回	ユニバーサルイベント			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 授業で配布する資料をよく読み、復習するようにしてください。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（30%）、作品（30%）、課題（20%）、授業態度（20%）</p>				
教科書	必要に応じ、プリントを配布します。				
参考文献	授業の中で随時、紹介します。				
注意事項					

科目名	ファッションの知識と実務	単位数	2	担当教員	中西 希和
授業の内容	<p>ファッションの多様化とともに、ファッションの知識に対する重要性は高まっています。</p> <p>この授業では、ファッションの商品知識や基礎的な技術、ファッションビジネスの現状や仕組み、マーケティングやマーチャンダイジング、ファッション販売に関わる内容を取り上げ、ファッションに関する幅広い知識を習得することを目的とします。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッション商品の基礎知識を身につける。 ・ファッション業界の全体像や現状を把握する。 ・ファッション情報を客観的に捉える力を養う。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション：ファッションとは 取得できる資格について			
	第2回	ファッションの商品知識①（アイテムについて）			
	第3回	ファッションの商品知識②（素材について）			
	第4回	ファッションの商品知識③（表示について）			
	第5回	ファッションビジネスの変遷と特性について			
	第6回	ファッション生活、ファッション消費について			
	第7回	ファッション産業の構造①（テキスタイル産業、アパレル産業の構造）			
	第8回	ファッション産業の構造②（小売業の構造）			
	第9回	ファッション・マーケティングの基礎知識			
	第10回	ファッション・マーチャンダイジングの基礎知識			
	第11回	ファッションと環境問題			
	第12回	ファッション小物制作①			
	第13回	ファッション小物制作②			
	第14回	ファッション小物制作③			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 授業で配布する資料をよく読み、復習するようにしてください。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（30％）、レポート（20％）、作品（20％）、授業態度（30％）</p>				
教科書	必要に応じ、プリントを配布します。				
参考文献	『ファッション販売Ⅰ』（財団法人 日本ファッション教育振興協会）				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・図像資料を紹介しながら授業を行うため、パワーポイント、DVDを使用します。 ・配布資料が多いので、失くさないように整理して保管してください。 				

科目名	ファッションコーディネート	単位数	2	担当教員	中西 希和
授業の内容	この授業では、ファッションコーディネートの基本的な知識や技術を身につけ、2種類以上のアパレル商品を組み合わせることによってトータルに美しく着こなす方法、また自分らしさを表現する方法を考えていきます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションコーディネートに関する基本的な知識や技術を身につける。 ・目的やイメージに合ったコーディネートをトータルで表現することができる。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション、ファッションコーディネートの重要性			
	第2回	20世紀のファッション史			
	第3回	ファッション情報について			
	第4回	ファッション商品の基礎知識			
	第5回	色によるコーディネート①（色の分類、色の心理的効果）			
	第6回	色によるコーディネート②（制作）			
	第7回	素材・イメージによるコーディネート①（イメージの分類）			
	第8回	素材・イメージによるコーディネート②（制作）			
	第9回	体型に合わせたコーディネート			
	第10回	ヘア&メイクの基礎知識			
	第11回	ネイルの基礎知識			
	第12回	フォーマルウェアの知識（昼、夜、ウェディング、ブラックのフォーマル）			
	第13回	ライフスタイルに合わせたコーディネート①（個別コーディネート作成方法）			
	第14回	ライフスタイルに合わせたコーディネート②（個別コーディネート作成）			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 授業で配布する資料をよく読み、復習するようにしてください。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（30%）、作品（40%）、授業態度（30%）				
教科書	必要に応じ、プリントを配布します。				
参考文献	授業の中で随時、紹介します。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・図像資料を紹介しながら授業を行うため、パワーポイント、DVDを使用します。 ・配布資料が多いので、失くさないように整理して保管してください。 				

科目名	ショップ・プレゼンテーション	単位数	2	担当教員	中西 希和
授業の内容	<p>ショップでは、ただ商品を並べるだけでなく、商品やショップのコンセプトをアピールしてお客様をひきつけ、買い物をするためにわかりやすく快適な環境を作る必要があります。</p> <p>この授業では、お客様にとって快適なショップとは何かを考え、基礎的な陳列や展示方法、POP、ラッピングの技術を習得することを目指します。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・快適で魅力的なショップとは何かを理解する。 ・ショップ演出の基礎的な知識、技術を身につける。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション：ショップ演出の重要性、購買心理			
	第2回	快適なショップ（売り場）作り、ディスプレイの役割と効果、照明・色彩			
	第3回	陳列の基本とさまざまな方法について、ショップの事例紹介、実習			
	第4回	展示の基本とさまざまな方法について、ショップの事例紹介、実習			
	第5回	ラッピング（斜め包み、合わせ包み、リボンの結び方）			
	第6回	ラッピング（ふろしき包み、ラッピングの応用）			
	第7回	POPの役割、POP文字の書き方、基本的なレイアウトパターン			
	第8回	POP制作			
	第9回	アパレル商品の陳列・展示方法1（フォーミング、フォールデッド）			
	第10回	アパレル商品の陳列・展示方法2（レイダウン）			
	第11回	学外見学（百貨店等のディスプレイ見学）			
	第12回	学外見学（百貨店等のディスプレイ見学）、学外見学まとめ（レポート提出）			
	第13回	ディスプレイ実習(1)（ディスプレイ計画、グループ決定）			
	第14回	ディスプレイ実習(2)（グループごとにディスプレイ発表）			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 授業で配布する資料をよく読み、復習するようにしてください。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（30%）、レポート（15%）、課題（15%）、発表（10%）、授業態度（30%）</p>				
教科書	必要に応じ、プリントを配布します。				
参考文献	授業の中で随時、紹介します。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・画像資料を紹介しながら授業を行うため、パワーポイント、DVDを使用します。 ・配布資料が多いので、失くさないように整理して保管してください。 				

科目名	カラーコーディネーター	単位数	2	担当教員	森山 隆次
授業の内容	実社会における様々な分野で注目されている「カラーコーディネーター」について、その基礎を身に付け、クリエイティブな仕事に対応できる能力を身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省認定の色彩検定3級の資格取得の能力を付けることができる。 ・文部科学省認定の色彩検定2級の知識の習得ができる。 ・実習課題の制作提出ができる。 				
授業計画	第1回	講習内容のオリエンテーション（授業内容とスケジュールの説明）			
	第2回	基本講習1（色のはたらき）			
	第3回	基本講習2（光と色）			
	第4回	基本講習3（色の表示Ⅰ）			
	第5回	基本講習4（色彩心理）			
	第6回	基本講習5（配色調和）			
	第7回	基本講習6（色彩効果）			
	第8回	基本講習7（色彩と生活）			
	第9回	基本講習8（ファッション）			
	第10回	基本講習9（インテリア）			
	第11回	基本講習10（色名）			
	第12回	基本講習11（色の表示Ⅱ）			
	第13回	色彩検定対策講習Ⅰ			
	第14回	色彩検定対策講習Ⅱ			
	第15回	総評・まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 教科書を前もって読んでおくこと		復習： 出された課題を仕上げてくること		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（70%）、課題（20%）、授業態度（10%）				
教科書	『色彩検定公式テキスト3級編』（AFT 企画） 『新配色カード199a』（日本色研事業株式会社）				
参考文献	インターネットにより参考資料各種				
注意事項					

科目名	商品とデザイン	単位数	2	担当教員	森山 隆次
授業の内容	コンピュータと最新のグラフィックアプリケーションでのオペレーションを取り入れ、実社会に通用する実践的な課題の制作に取り組み、デザインセンスを身に付け、自ら創造し提案「できる」能力を磨き、創造力を高める人材の育成を目指す。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフィックアプリケーションの操作が習得できる。 ・学期中に3点課題の作成および提出ができる。 				
授業計画	第1回	講習内容のオリエンテーション（授業内容とスケジュールの説明）			
	第2回	講義（商品のデザインについて）			
	第3回	コンピュータ実習1（ソフトウェアの使い方）			
	第4回	コンピュータ実習2（A課題作成）	※A課題：商品ラベルのデザイン/ワインボトル・パッケージの制作		
	第5回	コンピュータ実習3（A課題作成）			
	第6回	コンピュータ実習4（A課題作成）			
	第7回	コンピュータ実習5（A課題作成）			
	第8回	コンピュータ実習6（A課題作成）課題の提出			
	第9回	コンピュータ実習7（B課題作成）	※B課題：オリジナルデコレーションケーキのデザイン		
	第10回	コンピュータ実習8（B課題作成）	/作成したデータを元に実際のサンプル作成		
	第11回	コンピュータ実習9（B課題作成）			
	第12回	コンピュータ実習10（B課題作成）課題の提出			
	第13回	コンピュータ実習11（C課題作成）	※C課題：クリスマスカード・年賀状のデザイン		
	第14回	コンピュータ実習12（C課題作成）			
	第15回	コンピュータ実習11（C課題作成）課題の提出、まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 課題作成に関する、素材・情報のまとめ		復習： アプリケーションソフトの操作確認		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（60%）、作品（25%）、授業態度（15%）				
教科書	『これからはじめる Illustrator&Photoshop の本』（黒野 明子、技術評論社）				
参考文献	インターネットにより参考資料各種				
注意事項					

科目名	商業デザイン演習	単位数	2	担当教員	森山 隆次
授業の内容	本授業ではコンピュータによる課題作成を中心に、学生各自のデザインの想像力・創作力をデータ作成という具現化実習を通じて、クリエイティブ能力を発展・向上させ、積極的な提案を求められる実社会に通用するスキルを育てることを主たる目的とする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> グラフィックアプリケーションの操作の習得ができる。 学期中に2点課題の作成および提出ができる。 国際ユニバーサルデザイン協会認定「UD 検定」受験ための知識の取得ができる。 				
授業計画	第1回	講習内容のオリエンテーション、講義（デザイン史および現代デザイン概論、ユニバーサルデザイン概論）			
	第2回	コンピュータ実習1（ソフトウェアの使い方）			
	第3回	コンピュータ実習2（A課題作成）	※A課題：パッケージのデザイン/クッキーボックスの制作		
	第4回	コンピュータ実習3（A課題作成）			
	第5回	コンピュータ実習4（A課題作成）			
	第6回	コンピュータ実習5（A課題作成）			
	第7回	コンピュータ実習6（A課題作成）、課題の提出			
	第8回	コンピュータ実習7（B課題作成）	※B課題：ラベルのデザイン		
	第9回	コンピュータ実習8（B課題作成）	/オリジナルボトルガラスビン制作（秋草祭にて展示）		
	第10回	コンピュータ実習9（B課題作成）			
	第11回	コンピュータ実習10（B課題作成）			
	第12回	コンピュータ実習11（B課題作成）			
	第13回	コンピュータ実習12（B課題作成）、課題提出			
	第14回	講義（デザイン概論総集）			
	第15回	総評・まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 課題作成に関する、素材・情報のまとめ		復習： アプリケーションソフトの操作確認		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（60%）、作品（25%）、授業態度（15%）				
教科書	『これからはじめる Illustrator&Photoshop の本』（黒野 明子、技術評論社）				
参考文献	インターネットにより参考資料各種				
注意事項					

科目名	秘書概論	単位数	2	担当教員	山口 博美
授業の内容	秘書業務は、あらゆる組織で働く人々の基本的姿勢や、ビジネスの上での必要最低限の知識が盛り込まれています。秘書としての必要な知識を学びながら、上司のためだけでなく、組織の一員として自分がどう行動すればよいかを学びます。日本の秘書教育の歩みと共に、働く環境の変化や社会全体の価値観の変化を捉え、自らの将来を見据えたキャリアプランを考えることも授業の内容の一つです。秘書業務のさらなる能率向上と発展をめざし、社内外のヒューマンネットワークや情報ネットワークのコーディネーターとしての役割を担うなど、機能できる組織の一員となる自覚を育てる講義です。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 秘書業務を理解し知識を身につけ、「秘書検定2級」合格する。 2. 「秘書実務」と連動して実務に役立つ行動力、表現力を身につけ人間として成長する。 3. 社会人として、学びを行動に活かせること、行動から学ぶ姿勢を身につける。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション この講座の目的と検定試験 秘書の歴史と概念の変化			
	第2回	秘書と急変する社会・企業環境			
	第3回	秘書と会社組織			
	第4回	秘書の求められる資質と能力 自己の能力分析			
	第5回	秘書業務(1) P21～			
	第6回	秘書業務(2) P27～			
	第7回	ビジネスマナーと人間関係 情報ネットワーク・人的ネットワーク P40～			
	第8回	秘書のコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力 P55～			
	第9回	企業の一般知識 P60～			
	第10回	秘書の国際化と専門分野 P143～			
	第11回	秘書とマネジメント・マーケティング P129～			
	第12回	秘書とキャリア理論 P132～			
	第13回	これからの企業と企業倫理 P144～			
	第14回	メディカル秘書とリーガル秘書 P150～			
	第15回	女性と法律(労働基準法・社会保障他)女性の働き方の変化と社会の現状を考える			
授業に対する予習・復習	予習： テキストは事前に読み、内容を理解するため漢字や意味は調べて下さい。	復習： 知識確認のためノートにその日の学習をまとめる。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施(○)する/()しない 筆記試験(50%)、課題(10%)、発表(10%)、実技(20%)、授業態度(10%)				
教科書	『新しい時代の秘書ビジネス論』(全国大学実務教育協会、紀伊国屋書店)				
参考文献					
注意事項					

科目名	秘書実務	単位数	2	担当教員	山口 博美
授業の内容	人が相手に与える感じがいいことの要素は「言葉づかい、話し方、態度や雰囲気」です。現代の秘書の仕事は、上司の補佐のみならず、あらゆる仕事の流れを知り、職場全体の仕事の知識・理解や人間関係を円滑にするという、ビジネスに欠くことのできぬ存在です。「秘書検定」合格を目指すということは、すなわちこの「仕事の基本」と人柄育成を目指すことに繋がります。秘書として必要な専門的知識と実務能力を身につけ、社会へスムーズに移行できると共に、即戦力となれる秘書の養成が目的です。こうした学習を通して、自らの働く女性としての能力と人間的魅力を磨くことができます。演習を中心に、合格のポイントを解説いたします。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就職活動にも有利であり、社会人としての基礎力が身につく「秘書検定3・2級」に合格する。 2. 毎回の演習を通して実際に秘書業務をロールプレーで実践し、感じのいいマナーや印象を体得する。 3. ビジネスの場で、相手の視点に立って行動し考え、表現できる秘書スキルを身につける。 				
授業計画	第1回	講義のオリエンテーション 秘書業務の特色			
	第2回	秘書検定のポイント 最近の傾向と対策 準備の進め方			
	第3回	秘書の資質・能力について ディスカッション「秘書に求められる能力と自己の理想像」「女性の企業内での働き方」			
	第4回	秘書の役割と機能 秘書の立場と上司とのかかわり方 検定過去問題3級を解いてみる			
	第5回	一般知識 職務知識 検定3級過去問題			
	第6回	マナー・接遇 、慶弔の対応 検定3級過去問題			
	第7回	話し方と聴き方 「傾聴と話し方」検定3級過去問題			
	第8回	対応の仕方(1) 来客対応と接待 検定3・2級問題実践			
	第9回	対応の仕方(2) 上司への取次 検定3・2級過去問題			
	第10回	敬語 3種類の使い分け 特殊な場合と決まり文句 検定3・2級過去問題			
	第11回	冠婚葬祭のマナーと知識 宗教とマナー対応 検定3・2級過去問題			
	第12回	電話と報告 電話の対応 実践を重視し練習 検定3・2級過去問題			
	第13回	伝言メモと会議 実践で知識を得る 検定3・2級過去問題			
	第14回	ビジネス文書 社内文書と社外文書 検定3・2級過去問題			
	第15回	郵便知識・ファイリング・オフィス機器と情報管理 検定3・2級過去問題			
授業に対する予習・復習	予習： 過去問題を課題にします。必ず解答して提出すること。	復習： 毎回課題を出し、次回の講義の初めに採点しますのでチェックして復讐することが必要です。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施(○)する/()しない 筆記試験(50%)、課題(20%)、発表(10%)、実技(10%)、ぜん授業態度(10%)				
教科書	『秘書検定実問題集 2・3級』(実務技能検定協会編、早稲田教育出版)				
参考文献					
注意事項					

科目名	販売サービス	単位数	2	担当教員	清水 敏行
授業の内容	本講座は、小売業における販売サービスの基本として、店舗運営の基本的役割とその流れ、陳列の目的と各種パターン、顧客の購買心理プロセス、接客販売の基本について学習します。また、販売員の基本業務、必要となる法律知識について、販売事務と計数管理の基本、売場の人間関係、店舗管理の役割についても習得します。				
到達目標	到達目標は、①販売サービスに関連する基礎理論や知識を習得できる、②流通に関する今日的な実務・実践的な事例内容（店舗や商品など）を理解できる、③最終的に「販売士3級試験」合格レベルの実力が養成できることを目指します。				
授業計画	第1回	ストアオペレーションの基本（店舗運営の重要性と役割） ～基本講義を行い、復習問題の演習を行います。			
	第2回	ストアオペレーションの流れ（開店準備、発注・荷受け、補充、売場チェック、包装） ～基本講義を行い、復習問題の演習を行います。			
	第3回	ディスプレイの基本的役割（陳列の目的と役割） ～基本講義を行い、復習問題の演習を行います。			
	第4回	ディスプレイの基本パターン1（陳列器具の形状によるパターン） ～基本講義を行い、復習問題の演習を行います。			
	第5回	ディスプレイの基本パターン2（販売方法の特徴によるパターン） ～基本講義を行い、復習問題の演習を行います。			
	第6回	ワークスケジューリングの基本（作業割当の基本的役割） ～基本講義を行い、復習問題の演習を行います。			
	第7回	顧客の購買心理過程と接客販売（購買心理過程の段階、接客販売技術） ～基本講義を行い、復習問題の演習を行います。			
	第8回	販売員の基本業務（販売員の目的と役割、クレームや返品への対応） ～基本講義を行い、復習問題の演習を行います。			
	第9回	販売員に必要な法律知識1（販売活動、商品、販売促進に関する主な法規） ～基本講義を行い、復習問題の演習を行います。			
	第10回	販売員に必要な法律知識2（消費者基本法、環境問題に関する主な法規） ～基本講義を行い、復習問題の演習を行います。			
	第11回	販売事務の基本（販売管理に伴う事務の役割と内容） ～基本講義を行い、復習問題の演習を行います。			
	第12回	計数管理の基本（売価の計算、売買損益の計算法） ～基本講義を行い、復習問題の演習を行います。			
	第13回	売場の人間関係（コミュニケーションの基本、人間関係の向上） ～基本講義を行い、復習問題の演習を行います。			
	第14回	店舗管理の役割（金銭管理、店舗施設の保守・管理） ～基本講義を行い、復習問題の演習を行います。			
	第15回	これまでの総まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： お客様の立場から、店舗の販売活動や陳列、販売員のコミュニケーション、店舗施設などについて、観察してください。	復習：	店舗側の立場から、店舗の販売活動や陳列、お客様とのコミュニケーション、店舗施設のあり方について、考えてください。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（50%）、課題（40%）、授業態度（10%）				
教科書	『販売士3級』（清水敏行・大宮祐一・土居寛二、税務経理協会）				
参考文献	『流通経済の手引き』（日本経済新聞社）、『日経MJ流通新聞』（日経新聞社）				
注意事項	復習問題演習は、授業時に行います。章単位で提出し、後日返却します。 他の学生の勉学を妨げる行為は禁止（私語、携帯電話など）。				

科目名	流通経済のしくみ	単位数	2	担当教員	清水 敏行
授業の内容	本講座は、私たちの日常生活の幅広い分野で関わりのあるマーケティング活動を基礎から体系的に理解することを目的とします。市場における流通活動を中心としたマーケティングの基本知識と、時事・実務ケースなどの事例を合わせて学習していきます。				
到達目標	到達目標は、①マーケティングの基本的な考え方を習得できる、②実際の仕事の場面でどのように活用するか具体的な方法を理解できる、③今日的な問題に対してどのように対応するのかを習得できる、④最終的には、マーケティング的な視点からものごとを見る姿勢や能力を養成することができることを目指します。				
授業計画	第1回	マーケティングの概要（定義と役割）/具体的な企業や商品の事例研究① ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第2回	マーケティング・コンセプト（考え方と発展過程）/具体的な企業や商品の事例研究② ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第3回	マーケティング・マネジメント（環境と管理）/具体的な企業や商品の事例研究③ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第4回	市場細分化（基準と条件）/具体的な企業や商品の事例研究④ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第5回	標的市場の設定（設定の各方法）/具体的な企業や商品の事例研究⑤ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第6回	マーケティング・リサーチ（市場調査のプロセスと方法）/具体的な企業や商品の事例研究⑥ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第7回	消費者行動（購買意思決定のプロセスと要因）/具体的な企業や商品の事例研究⑦ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第8回	製品戦略1（製品分類、ライフサイクル）/具体的な企業や商品の事例研究⑧ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第9回	製品戦略2（ブランド、新製品開発）/具体的な企業や商品の事例研究⑨ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第10回	価格戦略（価格設定方法、価格政策）/具体的な企業や商品の事例研究⑩ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第11回	流通チャネル戦略1（流通機能、流通政策）/具体的な企業や商品の事例研究⑪ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第12回	流通チャネル戦略2（物流、新しい流通）/具体的な企業や商品の事例研究⑫ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第13回	プロモーション戦略1（広告、パブリシティ）/具体的な企業や商品の事例研究⑬ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第14回	プロモーション戦略2（人的販売、販売促進）/具体的な企業や商品の事例研究⑭ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第15回	これまでの総まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 日頃から、さまざまな業界や企業の具体的なマーケティング活動に関心を持ち、商品やブランド、広告や販売促進活動などに興味を持って情報収集をしてください。	復習： 授業で学習した商品や店舗などは、実際に訪問し観察をしたり、商品を使用したりして研究をしてください。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（50%）、レポート（40%）、授業態度（10%）				
教科書	『マーケティング・ビジネス実務検定＜ベーシック版テキスト＞』（国際実務マーケティング協会編、税務経理協会）				
参考文献	『流通経済の手引き』（日本経済新聞社）、『日経トレンドィ』（日経ホーム出版社）				
注意事項	レポートは、毎回の授業時に作成し提出します。 他の学生の勉学を妨げる行為は禁止（私語、携帯電話など）。				

科目名	簿記と会計のしくみ	単位数	2	担当教員	山田 ひとみ
授業の内容	会計に関する知識はビジネスパーソンにとって必須といわれています。企業は日々の取引を複式簿記で記録して会計情報を作成し、決算を行います。ですから、複式簿記の基礎を理解した上で会計の一連の手続を学ぶことが重要です。「簿記とは何か？」からスタートし、典型的な企業形態である株式会社の会計の仕組みを学びます。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記と会計の関連性を理解する。 2. 会計情報である財務諸表の意義と役割を理解する。 3. 自分で財務諸表を入手して、基礎的な経営分析ができるようになる。 				
授業計画	第1回	ガイダンス（授業の進め方、採点方法など）			
	第2回	株式会社と会計			
	第3回	会計と会計学（1）会計の歴史			
	第4回	会計と会計学（2）現代の会計			
	第5回	複式簿記の基本（1）仕訳、簿記一巡			
	第6回	複式簿記の基本（2）貸借対照表			
	第7回	複式簿記の基本（3）損益計算書			
	第8回	企業会計の基本（1）財産法と損益法、棚卸法と誘導法			
	第9回	企業会計の基本（2）会計公準、会計原則			
	第10回	企業会計制度（1）会社法、金融商品取引法			
	第11回	企業会計制度（2）法人税法			
	第12回	国際会計基準の取り扱い			
	第13回	会計情報と財務分析（1）発表準備			
	第14回	会計情報と財務分析（2）発表			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 授業中に指示したキーワードについて、情報収集をしてから授業に臨んで下さい。	復習： 授業中に出された課題を復習し、各項目について次回までに説明できるようにして下さい。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（60%）、課題（20%）、授業態度（20%）				
教科書	プリントを配布します。				
参考文献	授業中に指示します。				
注意事項	簿記を学んだ事が無くても受講できます。 なるべく多く出席して、その都度出される課題をこなすことが重要です。				

科目名	簿記演習	単位数	2	担当教員	山田 ひとみ
授業の内容	簿記はあらゆる業種の企業の業務に共通かつ不可欠な基礎知識です。企業は日々の経済活動を測定・記録し、財務諸表を作成していますが、その手段が複式簿記なのです。講義では毎回テーマについて例題を用いて説明した後、練習問題を解答してもらいます。演習問題を中心に、実践的に簿記を学びます。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 勘定の仕組みを理解して取引を仕訳し、決算を経て貸借対照表と損益計算書を作成できるようになる。 簿記一巡の手続を理解できるようになる（日商簿記3級程度）。 演習問題の反復解答練習をとおして、自ら応用問題を解答できる力が身に付く。 				
授業計画	第1回	ガイダンス（授業の進めかた、採点方法など）、簿記の目的と財務諸表			
	第2回	仕訳			
	第3回	転記、試算表			
	第4回	商品売買			
	第5回	現金・預金			
	第6回	手形（1）約束手形			
	第7回	手形（2）為替手形			
	第8回	手形（3）割引、値引			
	第9回	固定資産、有価証券、現金過不足			
	第10回	試算表			
	第11回	決算整理仕訳（1）有価証券の評価替え、現金過不足			
	第12回	決算整理仕訳（2）売上原価の計算、消耗品、貸倒引当金			
	第13回	決算整理仕訳（3）経過勘定、減価償却			
	第14回	決算整理仕訳（4）8桁精算表			
	第15回	損益計算書、貸借対照表			
授業に対する予習・復習	予習： 授業中に指示されたテキストの該当箇所を予習しておきましょう。	復習： 授業中に解説した例題や練習問題を、次回までに反復解答練習しましょう。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（50%）、課題（30%）、授業態度（20%）				
教科書	初回の授業で指示します。				
参考文献	授業中に指示します。				
注意事項	簿記は段階的に学ぶので欠席すると授業についてくるのが大変ですので、なるべく休まずに出席することを希望します。 受講後はぜひ日商簿記検定3級にチャレンジしましょう。				

科目名	文書処理演習	単位数	2	担当教員	金 宰郁
授業の内容	この文書処理演習は、文化表現学を学んで行くために必要となるコンピュータの基本操作、基礎、及び利用技術を習得します。Windows の基本操作、インターネット、各種アプリケーション（日本語ワープロ、及び研究発表会などでよく使われているプレゼンテーションソフト等）とその操作を通して、OS の機能や文字、教式、画像の操作方法、及びデータ形式について学びます。				
到達目標	文書処理演習により学習した情報機器ソフトを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを到達目標としています。				
授業計画	第1回	この授業科目に関するガイダンス Windows の基本操作(1)：OS, GUI, 自己紹介文作成および提出			
	第2回	Windows の基本操作(2)：ファイル管理, 種類, 文書の保存・読込み, その他 絵の作成の基礎(1)：絵描きソフト（ペイント）による文化表現関連課題の作成および提出			
	第3回	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(1)：文書形式, 文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成および提出			
	第4回	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(2)：文字サイズの変更, 文字揃えなどの関連課題の作成および提出			
	第5回	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(3)：均等割付・段組, 縦書き文字などの関連課題の作成および提出			
	第6回	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(4)：表作成と編集の関連課題の作成および提出			
	第7回	日本語ワープロソフト「Word」の応用(1)：クリップアート, ワードアートの関連課題作成, 及び提出			
	第8回	日本語ワープロソフト「Word」の応用(2)：図形描画の関連課題作成, 及び提出			
	第9回	日本語ワープロソフト「Word」の応用(3)：段組み, ドロップキャップ, ページ罫線の関連課題作成, 及び提出			
	第10回	日本語ワープロソフト「Word」の応用(4)：はがきなどの関連課題作成および提出			
	第11回	表計算ソフト「Excel」の基礎			
	第12回	表計算ソフト「Excel」の応用			
	第13回	プレゼンテーション「PowerPoint」：発表の構成とスライド, オブジェクトの編集, その他			
	第14回	プレゼンテーション「PowerPoint」：発表の準備, その他			
	第15回	プレゼンテーション発表：グループごとに PowerPoint で1つの作品を作り, 発表			
授業に対する予習・復習	予習：ワープロソフトの基礎知識（定義）を事前に調べてから、教科書の例題および課題を解いてみる。	復習：教科書の例題および当日の課題をもう一度解いてみて確認する。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（40%）、作品（20%）、発表（10%）、授業態度（30%）				
教科書	『文科系学生のための情報活用』（立野貴之、共立出版）				
参考文献	『知りたい操作がすぐわかる Word2013 全機能 Bible』（西上原裕明、技術評論社）				
注意事項	出席時間数が授業時間数の3分の2以上であり、かつ、課題、最終作品、発表、平常点等の成績を総合して合格と判断された場合、所定の単位が与えられます。				

科目名	表計算演習	単位数	2	担当教員	吉井 利眞
授業の内容	表計算ソフトを活用できることは、ビジネスの世界では不可欠である。毎週演習問題に取り組むことで、各自が表計算ソフトの機能を知り、操作法をマスターし、将来業務の中で利活用できるようになることを目的とする。この授業では、各種検定試験にチャレンジしていけるよう、情報処理とビジネスの知識に関することも併せて学習する。積極的に取り組み、検定に合格できるよう頑張りましょう。				
到達目標	基礎クラスは操作とデータ分析の基礎部分の習得、応用クラスは検定試験合格とします。				
授業計画	第1回	セルやシートの基本操作			
	第2回	データの追加・計算			
	第3回	基本の関数・データ抽出			
	第4回	端数処理・論理関数など			
	第5回	関数利用のデータ集計			
	第6回	データの集計（グループ別集計、ピボットテーブル）			
	第7回	グラフの作成1（割合）・課題演習1			
	第8回	グラフの作成2（複合）・課題演習2			
	第9回	課題演習3			
	第10回	課題演習4			
	第11回	課題演習5			
	第12回	模擬試験1&解説			
	第13回	模擬試験2&解説			
	第14回	表計算総合練習①			
	第15回	表計算総合練習②			
授業に対する予習・復習	予習： 毎回の実施内容について簡単な練習問題を解いてみましょう。	復習： 課題演習をやり直しておきましょう。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（50%）、実技（50%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	表計算は実用的なアプリケーションです。事務処理能力や情報活用力を高めることに役立ちますので、演習に積極的に取り組みましょう。				